預言者伝（スィーラ）

第 13 巻

クライザ族の遠征

盟約、裏切り、そしてアッラーの公正な裁き



HJ CHE ALIM HJ CHE HARON
AK (KELANTAN)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 13 巻

クライザ族の遠征

盟約、裏切り、そしてアッラーの公正な裁き — クルアーンと真正なハディースに基づいて

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ كُونُواْ قَوَّٰمِينَ لِلَّهِ شُهَدَآءَ بِٱلْقِسْطِ ۖ وَلَا يَجْرِمَنَّكُمْ شَنَـَٔانُ قَوْمٍ عَلَىٰٓ أَلَّا تَعْدِلُواْ ٱعْدِلُواْ هُوَ أَقْرَبُ لِلتَّقْوَىٰ ۖ وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ خَبِيرٌۢ بِمَا تَعْمَلُونَ

「あなたがた信仰する者よ、アッラーのために堅固に立つ者として、正義に基いた証人であれ。人びとを憎悪するあまり、あなたがたは（仲間にも敵にも）正義に反してはならない。正義を行いなさい。それは最も篤信に近いのである。アッラーを畏れなさい。アッラーはあなたがたの行うことを熟知なされる。」

食卓章 5:8

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

敵に対してさえ公正であるよう私たちに命じ、約束を守るしもべを助けられるアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 13 巻は、ハンダクの戦いの後に起きたクライザ族の出来事を語ります。破られた盟約、包囲、サアド・ブン・ムアーズの裁定、そして玉座を揺るがせた一人の教友の死です。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、**一本の古い路地**です。**日干しれんがの壁**の間を通り、**アスルの礼拝が近い午後**の傾いた日差しの中で、**金色の砂ぼこり**が舞い上がって輝いています。路地の先には緑の**ナツメヤシ園**が見え、遠い地平線には**石の砦のシルエット**がかすかに立っています。

路地の砂ぼこりは、アナス رضى الله عنه の言葉を思い起こさせます。「アッラーの使徒 ﷺ がクライザ族のもとへ出発されたとき、ガンム族の路地に舞い上がった砂ぼこり ― ジブリールの行軍の砂ぼこり ― を、私は今も見ているかのようだ」（『サヒーフ・ブハーリー』4118）。午後の光は、「誰もクライザ族の地に着くまでアスルの礼拝をしてはならない」（『サヒーフ・ブハーリー』4119）という使徒の命令を象徴しています。ナツメヤシ園はクライザ族が住んでいたアワーリー地区であり、遠くの砦は、アッラーが最終的にかれらを降ろされた要塞です（部族連合章 33:26）。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

目次

クライザ族の遠征 — はじめに

1. クライザ族とは誰か — スィーラ書

2. マディーナ憲章と相互の約束 — 食卓章 5:1

3. 引き裂かれた盟約 — スィーラ書

4. 知らせを確かめる使者 — スィーラ書；『ティルミズィー』3743

5. ジブリールはまだ武器を置いていない — 『サヒーフ・ブハーリー』4122

6. ジブリールの行軍の砂ぼこり — 『サヒーフ・ブハーリー』4118

7. クライザ族の地でのアスルの礼拝 — 『サヒーフ・ブハーリー』4119

8. アスルかズフルか？ 意見の違いの作法 — 『サヒーフ・ムスリム』1770

9. 砦の包囲 — 部族連合章 33:26

10. カアブ・ブン・アサドの三つの提案 — スィーラ書

11. アブー・ルバーバと悔悟の柱 — 戦利品章 8:27；スィーラ書

12. イスラームを選んだ人々 — 『サヒーフ・ブハーリー』4028

13. 「あなた方の長のために立ちなさい」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4121

14. サアド・ブン・ムアーズの裁定 — 『ティルミズィー』1582

15. 戦った者だけ — 『ティルミズィー』1584

16. かれらの人数はどれほどか — 『ティルミズィー』1582；スィーラ書

17. アッラーはかれらを砦から降ろされた — 部族連合章 33:26–27

18. アンサールのナツメヤシの返還 — 『サヒーフ・ブハーリー』4120

19. 「ジブリールがあなたと共にいる」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4123–4124

20. サアドの祈りと逝去 — 『サヒーフ・ブハーリー』4122

21. 慈悲深き御方の玉座が揺れた — 『サヒーフ・ブハーリー』3803

22. 敵に対しても公正に — 食卓章 5:8

23. クライザ族の物語の典拠 — 図；表

24. 約束と裏切りについてのクルアーンの節 — 戦利品章 8:55–58；『サヒーフ・ブハーリー』34、3186

25. 三つの部族、三つの盟約、三つの結末 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4028

26. クライザ族の出来事の人物 — 表；スィーラ書

27. クライザ族の子孫から生まれた学者 — アティーヤ・アル＝クラズィー；ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィー

28. クライザ族の出来事の年表 — 表

29. クライザ族についてのよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

クライザ族

『預言者伝』第 12 巻は、目に見えない軍勢と風に打ち負かされ、失望のうちに撤退した部族連合で終わりました。しかし、ムスリムたちが休む間もなく、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が新たな命令を携えて来ました。マディーナの**背後**に、まだ片付いていない一つの問題が残っていたのです — **クライザ族**の問題です。

クライザ族は、ムスリムと**盟約**で結ばれたユダヤ教徒の部族でした。マディーナが一万の軍勢に包囲されたとき、かれらはその盟約を破り、敵の側につきました。その後に続いた出来事 — かれらの砦の包囲、**サアド・ブン・ムアーズ** رضى الله عنه の裁定、そして玉座を揺るがせたサアドの死 — は、**部族連合章**（33:26–27）と真正なハディースに記録されています。

この物語はしばしば誤解されます。本書は、それを**誠実かつ公平に**伝えようと努めます。クルアーンと真正なハディースから確かなこと、スィーラ書で有名なこと、そして学者たちが議論していることを区別して示します。

クライザ族の出来事の年表（ヒジュラ暦5年ズル・カアダ月）

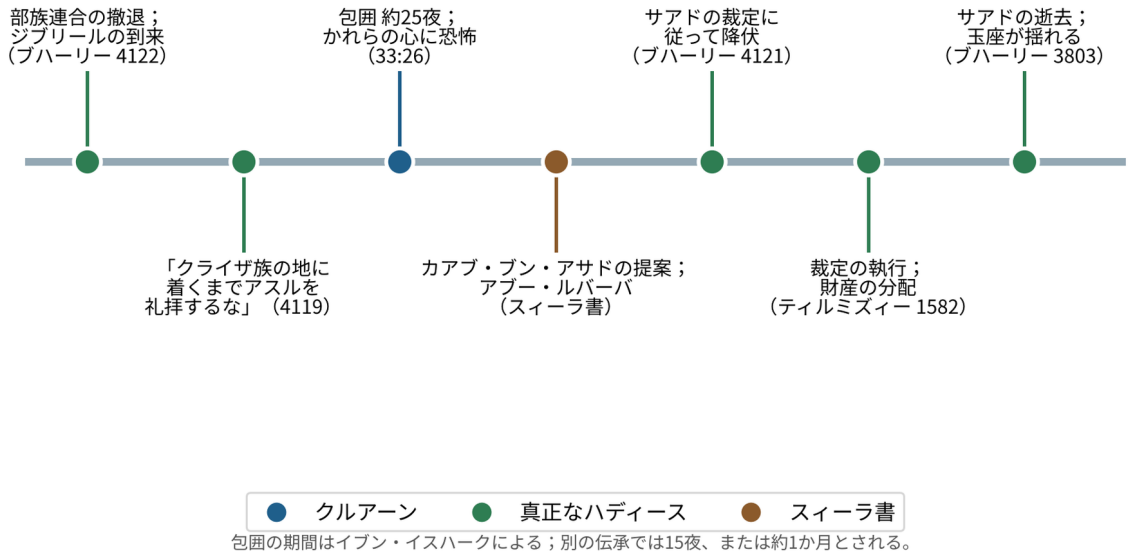


図 1：クライザ族の出来事の年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

クライザ族とは誰か

イスラーム以前、ヤスリブ（マディーナ）には二つのアラブ部族 — **アウス族**と**ハズラジュ族** — と、いくつかのユダヤ教徒の部族が住んでいました。最大の三つは、**カイヌカーウ族**、**ナディール族**、**クライザ族**です。かれらは自らの啓典、礼拝所、市場、そして砦を持っていました。

ユダヤ教徒の部族	説明（スィーラ書）
カイヌカー族	金細工師と商人；ハズラジュ族の同盟者；町の中に住む
ナディール族	豊かなナツメヤシ園の所有者；南部（アワーリー）に住む
クライザ族	ナツメヤシ農家；アウス族の同盟者；南東（アワーリー）に砦

クライザ族は**アワーリー**、すなわちマディーナ南東の、ナツメヤシ園の豊かな高地に住んでいました。かれらは堅固な**石の砦**（アータム）を築き、ジャーヒリーヤ時代から**アウス族の同盟者**でした — これはこの物語において非常に重要な事実です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

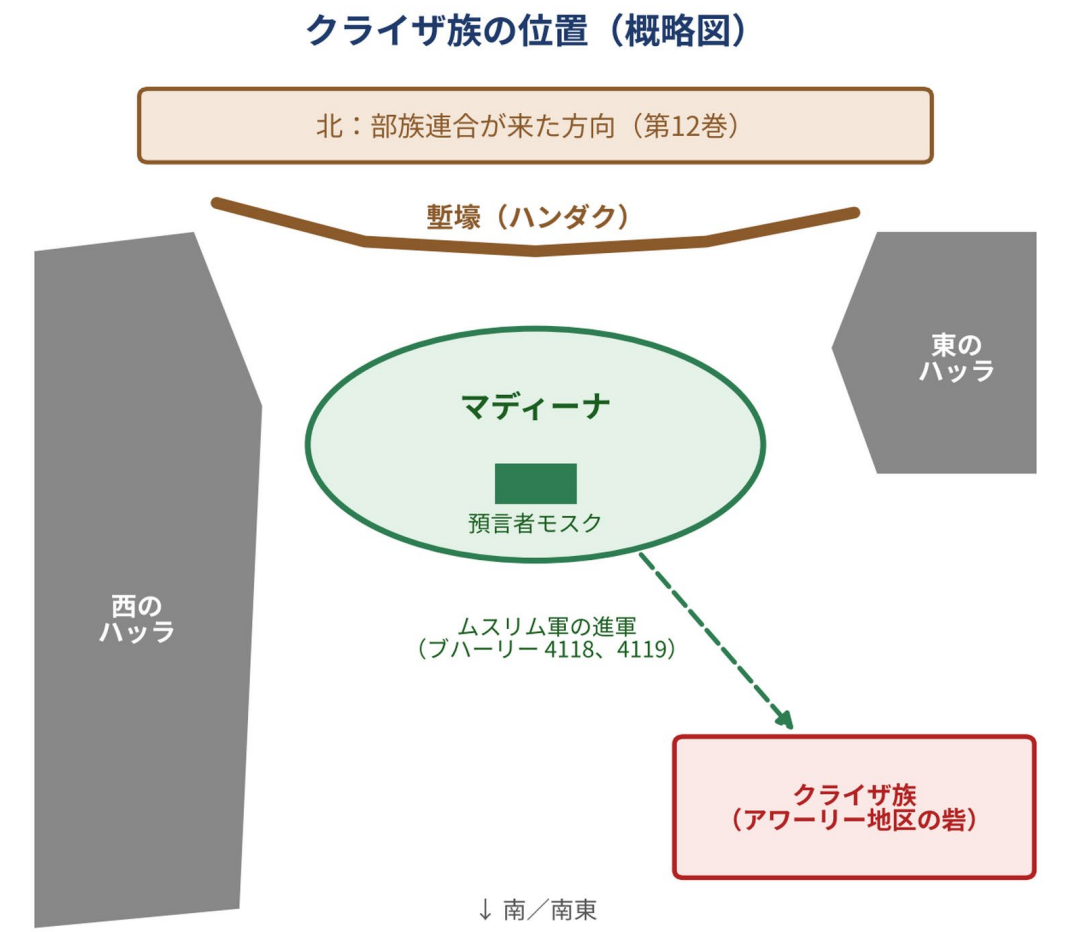


図 2：マディーナ南東のクライザ族の位置（概略図）。

スィーラの注：戦略上の位置

ハンダクの戦いのとき、塹壕はマディーナの**北側**に掘られました。ムスリムたちは北を向き、女性や子ども、家々はかれらの背後、**クライザ族の地域に隣接して**いました。クライザ族が盟約に忠実である限り、マディーナの背後は安全でした。

スィーラ書と現代の歴史家は、そのときのクライザ族の裏切りが、塹壕に守られていない方向から、敵をマディーナの中心へ直接通す道を開きかねなかったと説明しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Banu Qurayza」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Qurayza

教訓：歴史上の出来事を理解するには、その**位置と背景**を理解する必要があります。

マディーナ憲章と相互の約束

アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに到着されたとき（第 8 巻）、**マディーナ憲章**（アッ＝サヒーファ）として知られる文書を作られました。それはムハージルーン、アンサール、そしてかれらと共に住むユダヤ教徒の部族との関係を定めたものです。

スィーラの注：関連する憲章の条項

イブン・イスハークはマディーナ憲章の本文を伝えています。その条項の中には、「**ユダヤ教徒にはかれらの宗教があり、ムスリムにはかれらの宗教がある**」とあります。両者はこの憲章の当事者と戦う者に対して**互いに助け合い**、クライシュ族やかれらを助ける者を**助けてはならない**とされました。また、攻撃からヤスリブを**共に守る**義務がありました。

アブー・ウバイドの『**アル＝アムワール**』のように、一部の歴史家は、クライザ族とナディール族も**特別な盟約**をアッラーの使徒 ﷺ と結んでいたと述べています。その形がどうであれ、諸資料は、クライザ族が**和平と相互防衛の盟約に縛られていた**ことで一致しています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；アブー・ウバイド『アル＝アムワール』；Wikipedia「Constitution of Medina」。https://en.wikipedia.org/wiki/Constitution_of_Medina

イスラームは約束を非常に重い信託と見なします。アッラーは仰せられます。「**あなたがた信仰する者よ、約束を守りなさい。**」食卓章 5:1（イブン・カスィール注釈）。

マディーナ憲章は、人類史上最も初期の成文憲法文書の一つです。それは、アッラーの使徒 ﷺ が敵意ではなく、**和平をもってユダヤ教徒の部族との関係を始められ**、信教の自由と協力を重んじられたことを証明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

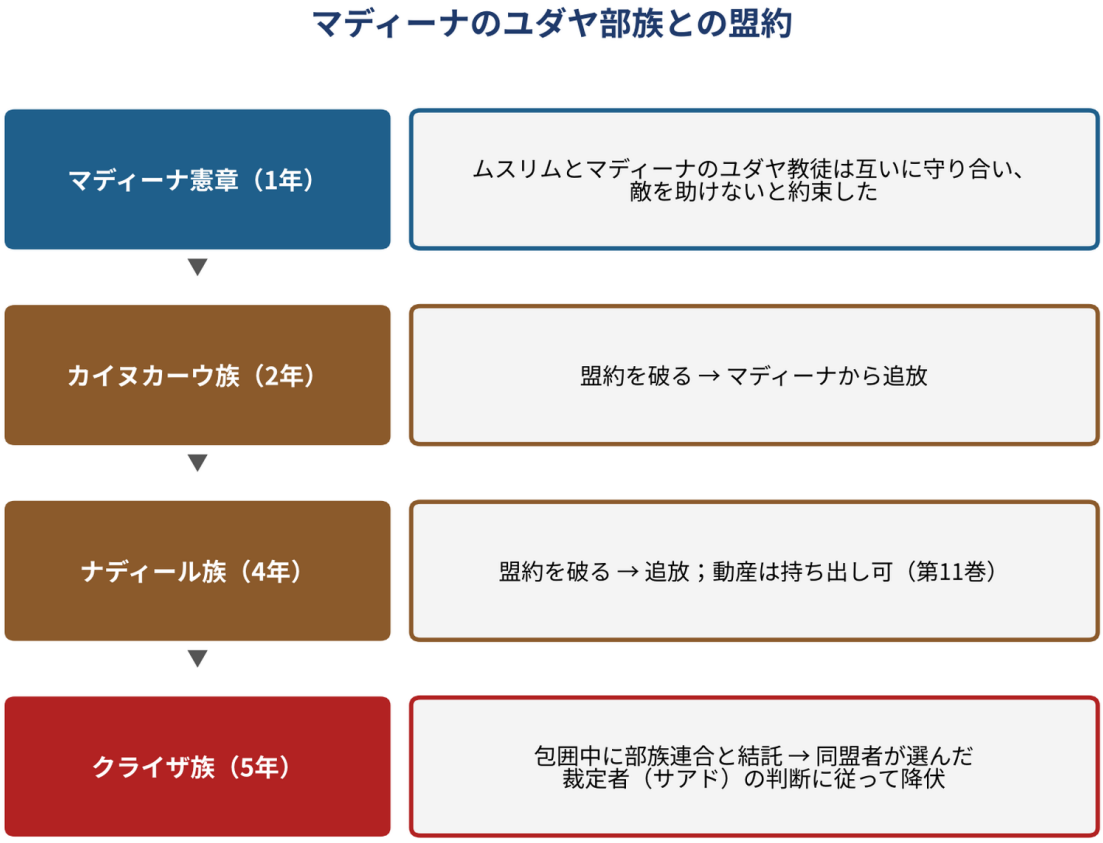


図 3：マディーナのユダヤ教徒の部族との盟約。

教訓：ムスリムは、相手が約束を守る限り**約束を守ります**。罰を受けたユダヤ教徒の部族 — カイヌカーウ族、ナディール族、クライザ族 — はそれぞれ、宗教のためではなく、盟約を破った**自らの行為**のために罰せられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

引き裂かれた盟約

第 12 巻では、ハイバルに追放されたナディール族の指導者**フヤイ・ブン・アフタブ**が、部族連合の主な扇動者の一人であったと述べました。部族連合の軍が塹壕の前に到着して渡れなかったとき、フヤイは別の道を探しました。マディーナの背後の守りを開けるよう**クライザ族を説得する**ことです。

スィーラの注：ついに開かれた門

イブン・イスハークは、フヤイが**カアブ・ブン・アサド** — アッラーの使徒 ﷺ との盟約を担っていたクライザ族の指導者 — のもとへ行ったと伝えています。カアブは初め**砦の門を閉ざして**会おうとせず、こう言いました。「私はムハンマドから、誠実さと約束の履行しか見たことがない。」

しかしフヤイは迫り続け、部族連合の力を「**あふれる大海**」にたとえ、必ずムハンマドを滅ぼすと言いました。また、部族連合が勝利なしに帰ったなら、自分もかれらと共に砦に入ると約束しました。ついにカアブは同意し、**ムスリムとの盟約は引き裂かれました**。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— ハンダクの戦いの章。

カアブ自身の告白に注目してください。かれは**裏切りを一度も見たことがなかった**のです — アッラーの使徒 ﷺ からは。これは、約束の破棄がムスリム側の不正によるものではなく、**力の誘惑**と、ムスリムが必ず敗れるという思い込みによるものであったことを示しています。

スィーラの注：砦の中の女性と子ども

スィーラ書は、ムスリムの女性と子どもがマディーナの砦に集められ、その中にはハッサーン・ブン・サービトの**ファーリウ**の砦もあったと述べています。イブン・イスハークは、一人のユダヤ教徒の男が偵察のためにその砦の周りをうろついたところ、**サフィ**

ーヤ・ビント・アブドゥルムッタリブ رضى الله عنها ― アッラーの使徒 ﷺ のおば ― が棒で打ってかれを殺したと伝えています。

この話はスィーラ書では有名ですが、ハディース学者の間では**その伝承経路が議論されています**（一部はムルサル）。ここでは確かな伝承としてではなく、マディーナの住民が感じた危険を示すものとして挙げています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』；アル＝ハイサミー『マジュマウ・アッ＝ザワーイド』。

教訓：平和なときに結んだ約束は、苦しいときに**試されます**。相手が強いときだけ忠実な者は、実は自らの約束に忠実ではないのです。

知らせを確かめる使者

クライザ族が盟約を破ったという知らせは、ハンダクの包囲が頂点に達していたとき、アッラーの使徒 ﷺ に届きました。使徒はうわさに基づいて行動されず、**まず確かめられました。**

真正なハディースによれば、部族連合の日、使徒は「誰があの人々の知らせを私に持って来るか」と尋ねられました。アッ＝ズバイル رضي الله عنه が応じると、使徒は仰せられました。「**どの預言者にもハワーリー（忠実な支援者）がいる。私のハワーリーはアッ＝ズバイルである**」（『サヒーフ・ブハーリー』2846）。アッ＝ズバイル自身も、クライザ族の日にアッラーの使徒 ﷺ が自分のために両親を併せて「**わが父母をあなたの身代わりに！**」と仰せられたと述べています（『ティルミズィー』3743、ハサン・サヒーフ）。

スィーラの注：二人のサアドと秘密の合図

イブン・イスハークは、アッラーの使徒 ﷺ が**サアド・ブン・ムアーズ**（クライザ族の同盟者アウス族の長）と**サアド・ブン・ウバーダ**（ハズラジュ族の長）を、アブドゥッラー・ブン・ラワーハとハウワート・ブン・ジュバイル رضي الله عنهما と共に遣わされたと伝えています。使徒は、もし知らせが本当なら、人々の士気がくじけないよう、使徒にだけ分かる**たとえ**で伝えるように、もし本当でないなら公に知らせるように、と命じられました。

かれらは、クライザ族が最悪の状態にあり、アッラーの使徒 ﷺ をののしってさえいるのを見ました。かれらは戻って言いました。「**アダルとカーラ！**」―ラジーウで教友たちを裏切った二つの部族の名です（第 11 巻）。使徒は仰せられました。「アッラーは偉大なり！ 喜びなさい、ムスリムたちよ。」

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）。

なぜ使徒は、これほど悪い知らせを受けたときに「喜びなさい」と仰せられたのでしょうか。学者たちはこう説明します。それは教友たちの**心を強める**ためであり、また試練が頂点に達することは**アッラーの助けが近い**しるしだと使徒が確信しておられたからです。

教訓：**行動する前に知らせを確かめなさい**。特に社会の安全を揺るがしかねない知らせについてはそうです。そして指導者は、知るべき人から真実を隠すことなく、従う者の士気を守ります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジブリールはまだ武器を置いていない

部族連合が撤退した後、アッラーの使徒 ﷺ はマディーナに戻り、武器を置いて沐浴されました。教友たちは戦いが終わったと思いました。しかしジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ がアッラーの命令を携えて来ました。アーイシャ رضى الله عنها はこう語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4122 番

حَدَّثَنَا زَكَرِيَّاءُ بْنُ يَحْيَى، حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ نُمَيْرٍ، حَدَّثَنَا هِشَامٌ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ أُصِيبَ سَعْدٌ يَوْمَ الْخَنْدَقِ، رَمَاهُ رَجُلٌ مِنْ قُرَيْشٍ يُقَالُ لَهُ حِبَّانُ ابْنُ الْعَرِقَةِ، رَمَاهُ فِي الأَكْحَلِ، فَضَرَبَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم خَيْمَةً فِي الْمَسْجِدِ لِيَعُودَهُ مِنْ قَرِيبٍ، فَلَمَّا رَجَعَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْخَنْدَقِ وَضَعَ السِّلاَحَ وَاغْتَسَلَ، فَأَتَاهُ جِبْرِيلُ ـ عَلَيْهِ السَّلاَمُ ـ وَهْوَ يَنْفُضُ رَأْسَهُ مِنَ الْغُبَارِ فَقَالَ قَدْ وَضَعْتَ السِّلاَحَ وَاللَّهِ مَا وَضَعْتُهُ، اخْرُجْ إِلَيْهِمْ. قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَأَيْنَ. فَأَشَارَ إِلَى بَنِي قُرَيْظَةَ، فَأَتَاهُمْ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَنَزَلُوا عَلَى حُكْمِهِ، فَرَدَّ الْحُكْمَ إِلَى سَعْدٍ، قَالَ فَإِنِّي أَحْكُمُ فِيهِمْ أَنْ تُقْتَلَ الْمُقَاتِلَةُ، وَأَنْ تُسْبَى النِّسَاءُ وَالذُّرِّيَّةُ، وَأَنْ تُقْسَمَ أَمْوَالُهُمْ. قَالَ هِشَامٌ فَأَخْبَرَنِي أَبِي عَنْ عَائِشَةَ أَنَّ سَعْدًا قَالَ اللَّهُمَّ إِنَّكَ تَعْلَمُ أَنَّهُ لَيْسَ أَحَدٌ أَحَبَّ إِلَىَّ أَنْ أُجَاهِدَهُمْ فِيكَ مِنْ قَوْمٍ كَذَّبُوا رَسُولَكَ صلى الله عليه وسلم وَأَخْرَجُوهُ، اللَّهُمَّ فَإِنِّي أَظُنُّ أَنَّكَ قَدْ وَضَعْتَ الْحَرْبَ بَيْنَنَا وَبَيْنَهُمْ، فَإِنْ كَانَ بَقِيَ مِنْ حَرْبِ قُرَيْشٍ شَىْءٌ، فَأَبْقِنِي لَهُ حَتَّى أُجَاهِدَهُمْ فِيكَ، وَإِنْ كُنْتَ وَضَعْتَ الْحَرْبَ فَافْجُرْهَا، وَاجْعَلْ مَوْتَتِي فِيهَا. فَانْفَجَرَتْ مِنْ لَبَّتِهِ، فَلَمْ يَرُعْهُمْ وَفِي الْمَسْجِدِ خَيْمَةٌ مِنْ بَنِي غِفَارٍ إِلاَّ الدَّمُ يَسِيلُ إِلَيْهِمْ فَقَالُوا يَا أَهْلَ الْخَيْمَةِ مَا هَذَا الَّذِي يَأْتِينَا مِنْ قِبَلِكُمْ فَإِذَا سَعْدٌ يَغْذُو جُرْحُهُ دَمًا، فَمَاتَ مِنْهَا رضى الله عنه.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った：**サアドはハンダクの日に矢に当たった。ヒッバーン・ブン・アル＝アリカというクライシュ族の男が、かれの腕の静脈（アル＝アクハル）を**

射たのである。そこで預言者 ﷺ は、近くから見舞えるようにモスクの中に天幕を張られた。アッラーの使徒 ﷺ がハンダクから戻られ、武器を置いて沐浴されると、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が頭の砂ぼこりを払いながら来て言った。「あなたは武器を置かれたのか？ アッラーにかけて、私はまだ置いていない。かれらのもとへ出て行きなさい。」 預言者 ﷺ は「どこへ？」と尋ねられた。ジブリールはクライザ族の方を指した。アッラーの使徒 ﷺ はかれらのもとへ行かれ、かれらは使徒の裁定に従って（砦から）降りて来た。使徒はその裁定をサアドに委ねられた。サアドは言った。**「私は、戦う者は殺され、女性と子どもは捕虜とされ、かれらの財産は分配されると裁定する。」** ヒシャームは言った：父がアーイシャから私に伝えたところでは、サアドはこう祈った。**「アッラーよ、あなたはご存じです。あなたの使徒 ﷺ を嘘つき呼ばわりし、追い出した民ほど、あなたのために戦いたいと私が望む民はいないことを。アッラーよ、あなたは私たちとかれらとの戦いを終わらせられたと思います。もしクライシュ族との戦いがまだ残っているなら、私を生かしてください。あなたのためにかれらと戦えるように。もしあなたがその戦いを終わらせられたのなら、この傷を開いてください。そしてそれによって私を死なせてください。」** すると傷が胸のあたりから噴き出した。モスクの中のギファール族の天幕の人々は、血が自分たちの方へ流れて来るのを見て驚き、「天幕の人々よ、あなた方の方から私たちのところへ来ているこれは何か」と言った。それはサアドの傷から流れ出る血であり、かれはそれによって亡くなった رضي الله عنه。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ザカリーヤー・ブン・ヤフヤー ← アブドゥッラー・ブン・ヌマイル ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← 父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4122 番；第 463 番、第 2813 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1769 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4122

「アッラーにかけて、私はまだ置いていない」

ジブリールの言葉に注目してください。「**あなたは武器を置かれたのか？ アッラーにかけて、私はまだ置いていない。**」 ハンダクで助けに降りた天使たち（部族連合章 33:9）は、なお備えていました。国が包囲されているときに盟約を裏切った者との問題は、**まだ終わっていなかった**のです。

この命令は、**アッラーから**来たものであり、アッラーの使徒 ﷺ の復讐心から来たものではありません。使徒は怒りにまかせて自ら進んでクライザ族のもとへ行かれたのではありません。ジブリールがかれらの方角を指したとき、行かれたのです。

ハディースの場面	その意味
モスクの中のサアドの天幕	使徒は傷ついた教友を近くから見舞われた
武器を置き、沐浴を終えたばかり	使徒もまた、包囲の後に疲れた人間であった
砂ぼこりにまみれたジブリール	天使たちもムスリムと共に戦った
「どこへ？」	使徒はアッラーの命令を待たれた

教訓：勝利は**油断**のときではありません。脅威が公正に解決されない限り、体が疲れていても仕事は終わっていないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジブリールの行軍の砂ぼこり

当時まだ若者だったアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、生涯忘れられない光景を目撃しました：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4118 番

حَدَّثَنَا مُوسَى، حَدَّثَنَا جَرِيرُ بْنُ حَازِمٍ، عَنْ حُمَيْدِ بْنِ هِلاَلٍ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ كَأَنِّي أَنْظُرُ إِلَى الْغُبَارِ سَاطِعًا فِي زُقَاقِ بَنِي غَنْمٍ مَوْكِبِ جِبْرِيلَ حِينَ سَارَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى بَنِي قُرَيْظَةَ.

訳：

アナス رضى الله عنه は言った：「**アッラーの使徒 ﷺ がクライザ族のもとへ出発されたとき、ガンム族の路地にもうもうと舞い上がった砂ぼこり ― すなわちジブリールの行軍の砂ぼこり ― を、私は今も見ているかのようだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← ジャリール・ブン・ハーズィム ← フマイド・ブン・ヒラール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4118 番；第 3214 番にも。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4118

アナスはジブリールを見たのではありませんが、マディーナのアンサールの集落の一つであるガンム族の路地に**もうもうと舞い上がる砂ぼこり**を見て、それがジブリールの行軍の砂ぼこりであると知りました。何十年も後になっても、かれは**今も見ているかのように**それを語りました。

スィーラの注：アッラーの使徒 ﷺ の出発

スィーラ書は、アッラーの使徒ﷺが旗を**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه に渡し、軍の先に送られたと述べています。使徒は**イブン・ウンミ・マクトゥーム** رضى الله عنه をマディーナの臨時の長に任命されました。出発したムスリム軍は約**三千**人、馬は**三十**頭と推定されています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；イブン・サアド『大伝記集（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

ジブリールと天使たちの存在は、クライザ族の出来事がハンダクの戦いの**続き**であることを示しています。部族連合に風を送られたアッラーは、かれらと結託した者に立ち向かうことも命じられたのです。

教訓：これらの出来事についての教友たちの記憶は、非常に**鮮明で詳細**です。このようなハディースは後から作られた話ではなく、自分の目で見た人々の証言なのです。

クライザ族の地でのアスルの礼拝

出発の前に、アッラーの使徒 ﷺ は一見簡単な指示を与えられましたが、それは後に**意見の違いの法学**において最も有名なハディースの一つとなりました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4119 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدِ بْنِ أَسْمَاءَ، حَدَّثَنَا جُوَيْرِيَةُ بْنُ أَسْمَاءَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الأَحْزَابِ لاَ يُصَلِّيَنَّ أَحَدٌ الْعَصْرَ إِلاَّ فِي بَنِي قُرَيْظَةَ. فَأَدْرَكَ بَعْضُهُمُ الْعَصْرَ فِي الطَّرِيقِ، فَقَالَ بَعْضُهُمْ لاَ نُصَلِّي حَتَّى نَأْتِيَهَا. وَقَالَ بَعْضُهُمْ بَلْ نُصَلِّي، لَمْ يُرِدْ مِنَّا ذَلِكَ، فَذُكِرَ ذَلِكَ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَلَمْ يُعَنِّفْ وَاحِدًا مِنْهُمْ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った：預言者 ﷺ は部族連合の日に仰せられた。「**誰も、クライザ族の（集落）以外でアスルの礼拝をしてはならない。**」 かれらの一部は、道中でアスルの時間を迎えた。ある者たちは「そこに着くまで礼拝しない」と言った。別の者たちは「いや、礼拝する。使徒は私たちにそういう意味で言われたのではない」と言った。そのことが預言者 ﷺ に伝えられると、**使徒はかれらの誰をも咎められなかった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド・ブン・アスマー ← ジュワイリーヤ・ブン・アスマー ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4119 番；第 946 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4119

教友たちは急いで出発しました。道中、アスルの時間が入り、終わりかけました。そこで疑問が生じました。使徒の指示は、時間が過ぎても着くまで**まったく礼拝す**

るなという意味なのか。それとも、向こうで礼拝できるよう**急ぎなさい**という意味なのか。

集団	理解の仕方
第一のグループ	言葉の表面に従った：時間が過ぎても、クライザ族の地でのみ礼拝する
第二のグループ	指示の意図を理解した：急ぐこと；だから道中、時間内に礼拝する
アッラーの使徒 ﷺ	どちらのグループも咎められなかった

両グループとも**従う意図**を持っていました。第一のグループは指示の**言葉**を優先し、第二のグループは指示の**意図**を優先しました。そして、ご自身の言葉の意味を最もよく理解しておられたアッラーの使徒 ﷺ は、誰をも**責められませんでした**。

教訓：証拠と解釈の余地があるイジュティハードの問題では、意見の違いは**敵意の原因となってはなりません**。両者ともに善の中にいることができるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アスルかズフルか？ 意見の違いの作法

興味深いことに、イマーム・ムスリムはほぼ同じ伝承経路で同じハディースを伝えていますが、一つの違いがあります。言及されている礼拝が、アスルではなく**ズフル**なのです。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1770 番

وَحَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدِ بْنِ أَسْمَاءَ الضُّبَعِيُّ، حَدَّثَنَا جُوَيْرِيَةُ بْنُ أَسْمَاءَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ، قَالَ نَادَى فِينَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ انْصَرَفَ عَنِ الأَحْزَابِ أَنْ لاَ يُصَلِّيَنَّ أَحَدٌ الظُّهْرَ إِلاَّ فِي بَنِي قُرَيْظَةَ. فَتَخَوَّفَ نَاسٌ فَوْتَ الْوَقْتِ فَصَلُّوا دُونَ بَنِي قُرَيْظَةَ. وَقَالَ آخَرُونَ لاَ نُصَلِّي إِلاَّ حَيْثُ أَمَرَنَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَإِنْ فَاتَنَا الْوَقْتُ قَالَ فَمَا عَنَّفَ وَاحِدًا مِنَ الْفَرِيقَيْنِ.

訳：

アブドゥッラー（・ブン・ウマル）رضى الله عنهما は言った：アッラーの使徒 ﷺ は、部族連合から戻られた日に私たちに呼びかけられた。「**誰も、クライザ族の（集落）以外でズフルの礼拝をしてはならない。**」すると一部の人々は時間が過ぎるのを恐れ、クライザ族の地に着く前に礼拝した。他の人々は「時間が過ぎても、アッラーの使徒 ﷺ が命じられた場所以外では礼拝しない」と言った。**使徒は両グループの誰をも咎められなかった。**

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド・ブン・アスマー・アッ＝ドゥバイー ← ジュワイリーヤ・ブン・アスマー ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、戦いへ急ぎ、より重要なことを優先する章、ハディース第 1770 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1770

これは矛盾しているのでしょうか。『ファトフ・アル＝バーリー』の**イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー**のようなハディース学者は、これを丁寧に論じ、いくつかの妥当な説明を示しています：

説明	解説（『ファトフ・アル＝バーリー』）
二つの異なるグループ	まだズフルを礼拝していない者には「ズフル」と、すでに礼拝した者には「アスル」と告げられた
二つの出発時刻	ある者は早く、ある者は後から出発した
伝承者の違い	伝承者の一人が礼拝の名を言い間違えた
より有力な説	多くの学者は「アスル」の伝承（ブハーリー）を有力とする

このような小さな違いは、実は物語の真正さを**強める**ものです。ハディース学者はそれを隠さず、両方を正直に伝え、その上で解説しました。出来事の核心 — クライザ族のもとへ急げという命令と、使徒がどちらも咎められなかったこと — は**変わりません**。

意見の違いの作法

イマーム・アン＝ナワウィーは、このハディースを、真理に到達しようと懸命に努力した**イジュティハードを行う者は咎められない**ことの証拠として挙げています。それは法学派における意見の違いの作法の基礎となりました。**私たちは分裂することなく意見を異にすることができる**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

砦の包囲

ムスリム軍はクライザ族の集落に到着し、かれらの砦を包囲しました。クライザ族は堅固な石壁の陰に身を守り、長期間に十分な食料と水を蓄えていました。

スィーラの注：包囲の期間

イブン・イスハークは、包囲は**二十五夜**続いたと述べています。別の伝承では十五夜、または約一か月とされます。その間、矢の射ち合いはありましたが、大きな戦闘はありませんでした。

イブン・イスハークはまた、**フヤイ・ブン・アフタブ**がカアブへの約束を守り、部族連合が撤退した後にクライザ族の砦に入り、かれらと共に包囲されたと伝えています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Invasion of Banu Qurayza」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Invasion_of_Banu_Qurayza

クルアーンは、砦の中のかれらの様子をこう描いています。**「またかれは、かれら（連合軍）を後援した啓典の民を、それらの砦から追い、その心中に恐怖を投じられた……」**部族連合章 33:26（イブン・カスィール注釈）。

かれらの砦は堅固で、蓄えは十分でした — しかし**かれらの心は恐怖に満ちていました**。イブン・カスィールは、アッラーがかれらの心に恐れを投げ込まれたため、外見上は可能であっても、かれらは持ちこたえることができなかったと説明しています。

要因	クライザ族の状況
砦	堅固で、石造り
蓄え	長期間に十分（スィーラ書）
同盟者	部族連合はすでに帰った；助けは来ない
心	「恐怖が満たされた」（33:26）

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓：真の強さは**壁と蓄え**にあるのではなく、心にあります。頼りにしていた同盟者が去り、心が恐怖で満たされたとき、最も堅固な砦も意味をなさないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアブ・ブン・アサドの三つの提案

包囲が長引き、望みが薄れていくと、クライザ族の長カアブ・ブン・アサドは部族を集めて協議しました。この出来事は『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはありませんが、イブン・イスハークが伝えており、スィーラ書では有名です。

スィーラの注：砦の中の協議

イブン・イスハークによれば、カアブは部族にこう言いました。「私はあなた方に**三つの選択肢**を示す。望むものを取りなさい。」

第一：「この人に従い、かれを信じよう。アッラーにかけて、かれが**遣わされた預言者**であり、あなた方が自分たちの啓典の中に（その特徴を）見いだしている者であることは、あなた方にとって明らかだ。」 かれらは答えました。「私たちは決してトーラーの律法を捨てない。」

第二： 外に出て死ぬまで戦うこと。**第三：** ユダヤ教徒は戦わないとムスリムが思っている安息日の前夜に、ムスリムを襲うこと。この二つの選択肢も拒まれました。するとカアブは言いました。「あなた方の誰一人として、生まれてこのかた、たった一晩でも**決断した**ことがない。」

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）— クライザ族の章。

この伝承は、クルアーンが繰り返し述べていることを描いています。啓典の民の一部は**真実を知っていた**のです — アッラーの使徒 ﷺ について、「自分の子どもを知るように」（雌牛章 2:146）。それにもかかわらず、従うことを拒んだのです。

教訓：**真理を知ることは、それを受け入れることと同じではありません。**自我、部族への執着、地位を失う恐れは、証拠が目の前にあっても、人を導きから遠ざけることがあります。真理に従う心を授けてくださるよう、アッラーに祈りましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・ルバーバと悔悟の柱

クライザ族の出来事の中で最も心を打つ話の一つは、アウス族出身のアンサールの教友、**アブー・ルバーバ・ブン・アブドゥルムンズィル** رضى الله عنه の話です。この話はイブン・イスハークが伝え、クルアーン注釈書にも述べられています。

スィーラの注：悔やまれた身ぶり

イブン・イスハークによれば、クライザ族は、昔からの同盟者であるアブー・ルバーバを交渉のために遣わしてほしいとアッラーの使徒 ﷺ に頼みました。かれが入って行くと、男たちは立ち上がって迎え、女性と子どもたちはかれの前で泣きました。かれらは尋ねました。「アブー・ルバーバよ、私たちはムハンマドの裁定に従って降伏すべきだと思うか。」 かれは「そうだ」と答えながら — **手で自分の首を指し示しました**。つまり、殺されるということです。

アブー・ルバーバは言いました。「アッラーにかけて、私の足がその場を離れないうちに、私は自分が**アッラーとその使徒を裏切った**と悟った。」 かれはアッラーの使徒 ﷺ のもとへ戻らず、まっすぐモスクへ行き、**一本の柱に自分を縛りつけ**、アッラーが悔悟を受け入れてくださるまでそこを離れないと誓いました。

その知らせがアッラーの使徒 ﷺ に届くと、使徒は仰せられました。「もしかれが私のところに来ていたなら、私はかれのために赦しを請うたであろう。だが、かれがそうした以上、アッラーがかれの悔悟を受け入れられるまで、私はかれを解かない。」 数日後、かれの悔悟は受け入れられ、**アッラーの使徒 ﷺ ご自身がかれの縄を解かれました**。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・カスィール注釈（戦利品章 8:27）。
https://tafsir.app/ibn-katheer/8/27

一部の注釈学者は、次の節がアブー・ルバーバに関して啓示されたと述べています。

「あなたがた信仰する者よ、アッラーとその使徒を裏切ってはならない。また故意

に、あなたがたへの信頼を裏切ってはならない。」戦利品章 8:27（イブン・カスィール注釈）。

イブン・カスィールはこの説を、この節は一般的なものだという別の説と並べて伝えています。啓示の契機についての伝承は**サヒーフの等級に達していない**ため、注釈学者の説の一つとして挙げられています。今日、この話に結びつけられている預言者モスクの柱は、**ウスチュワーナ・アッ＝タウバ**（悔悟の柱）、またはアブー・ルバーバの柱として知られています。

教訓：誠実な信仰者の過ちには、**すぐさまの、心からの後悔**が続きます。アブー・ルバーバは言い訳を探さず、自分の過ちを認め、それをまっすぐアッラーのもとへ持って行きました。

イスラームを選んだ人々

クライザ族の全員が裏切りに加担したわけではありません。真正なハディースは、かれらの中に**別の道を選んだ**人々がいたことを記録しています。アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、マディーナのユダヤ教徒の部族の運命をこう要約しています：

「ナディール族とクライザ族は（預言者 ﷺ と）戦った。そこで使徒はナディール族を追放し、クライザ族はとどまらせて善く遇された。やがてクライザ族が使徒と戦うまでは……ただし、かれらの一部は預言者 ﷺ のもとに来たので、使徒はかれらに安全を与え、かれらはイスラームに入った。」（『サヒーフ・ブハーリー』4028；『サヒーフ・ムスリム』1766）。

「**クライザ族はとどまらせて善く遇された**」という言葉に注目してください。ナディール族が追放された後（第 11 巻）、クライザ族は手出しされませんでした。かれらは自分たちの土地に平和に住み続けました — ハンダクのときに、かれら自身が盟約を破るまでは。

スィーラの注：名前が挙げられた人々

イブン・イスハークは、三人の若者 — **サアラバ・ブン・サアヤ**、**ウサイド・ブン・サアヤ**、**アサド・ブン・ウバイド** — が、クライザ族が降伏する前夜にイスラームに入ったと述べています。かれらは家族や財産と共に救われました。

イブン・イスハークはまた、裏切りに加わることを拒んだクライザ族の男**アムル・ブン・スウダー**についても述べています。かれは「私は決してムハンマドを裏切らない」と言いました。かれは夜に砦を出て行き、どこへ行ったのかは知られていません。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークの伝承）。

教訓：**イスラームと安全の門は、最後の瞬間まで常に開かれています。**後に下された罰は、かれらがユダヤ教徒であったからではありません。その証拠に、イスラームを選んだ者や裏切りに加わらなかった者は救われたのです。

「あなた方の長のために立ちなさい」

ついにクライザ族は砦から降り、**裁定に従って降伏しました**—アッラーの使徒 ﷺ の裁定です。クライザ族の昔からの同盟者であるアウス族がやって来て、ハズラジュ族の同盟者カイヌカーウ族に寛大であったように、かれらにも寛大であってほしいと願いました。

スィーラの注：かれらの同盟者の中からの裁定者

イブン・イスハークは、アッラーの使徒 ﷺ がアウス族に尋ねられたと伝えています。**「あなた方の中の一人がかれらを裁くなら、あなた方は満足するか。」** かれらは「はい」と答えました。使徒は仰せられました。「では、それは**サアド・ブン・ムアーズ**に委ねられる。」

サアドはアウス族の長その人—ジャーヒリーヤ時代からのクライザ族の同盟者でした。クライザ族とアウス族は、かれが寛大であることを期待しました。また真正なハディースでは、**クライザ族自身**がサアドの裁定に従って降伏したと述べられています（『サヒーフ・ブハーリー』4121）。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ブハーリー』4121。https://sunnah.com/bukhari:4121

サアドはそのとき、ハンダクで受けた矢傷のためにモスクの天幕で横になっていました。かれはロバに乗せられて運ばれました。アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه が、起きたことを語っています：

ハディース—『サヒーフ・ブハーリー』第 4121 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ سَعْدٍ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا أُمَامَةَ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا سَعِيدٍ الْخُدْرِيَّ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ نَزَلَ أَهْلُ قُرَيْظَةَ عَلَى حُكْمِ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ، فَأَرْسَلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِلَى سَعْدٍ، فَأَتَى عَلَى حِمَارٍ، فَلَمَّا دَنَا مِنَ الْمَسْجِدِ

قَالَ لِلأَنْصَارِ قُومُوا إِلَى سَيِّدِكُمْ ـ أَوْ ـ خَيْرِكُمْ. فَقَالَ هَؤُلاَءِ نَزَلُوا عَلَى حُكْمِكَ. فَقَالَ تُقْتَلُ مُقَاتِلَتُهُمْ وَتَسْبِي ذَرَارِيَّهُمْ. قَالَ قَضَيْتَ بِحُكْمِ اللَّهِ. وَرُبَّمَا قَالَ بِحُكْمِ الْمَلِكِ.

訳：

アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه は言った：**クライザの人々は、サアド・ブン・ムアーズの裁定に従って（砦から）降りて来た。そこで預言者 ﷺ はサアドのもとへ人を遣わされ、かれはロバに乗って来た。かれが（そこにあった礼拝所の）モスクに近づくと、使徒はアンサールに仰せられた。「あなた方の長のために立ちなさい」―または「あなた方の中の最も優れた者のために」。** 使徒は仰せられた。「この人々は、あなたの裁定に従って降りて来た。」 サアドは言った。「かれらのうち戦う者は殺され、かれらの子どもは捕虜とされる。」 使徒は仰せられた。**「あなたはアッラーの裁きによって裁いた。」** また時には、こう仰せられた。**「王（アッラー）の裁きによって。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル ← シュウバ ← サアド・ブン・イブラーヒーム ← アブー・ウマーマ・ブン・サフル ← アブー・サイード・アル＝フドリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4121 番；第 3043 番、第 6262 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1768 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4121

「あなた方の長のために立ちなさい」という使徒の言葉は、サアドへの敬意を示しています。アーイシャからの『**ムスナド・アフマド**』の伝承では、**「.....そしてかれを（ロバから）降ろしなさい」**と付け加えられています。サアドが負傷していたからです。学者たちはこれを、尊敬される人を**助け、迎える**ために立つことは良いことだという証拠としています。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、その権利がおありになったにもかかわらず、**自ら裁かれませんでした**。当事者が受け入れる裁定者に裁定を委ねられたのです — 公正な**仲裁**（タハキーム）の原則です。

イスラームにおける仲裁（タハキーム）

双方が合意した裁定者に判断を委ねることは、**タハキーム**として知られています。クルアーンはそれを勧めており、たとえば夫婦の争いについて「夫の家族から一人、妻の家族から一人の調停者を立てなさい」（婦人章 4:35）とあります。またアッラーは、人々の間を裁くときは**公正に裁く**よう仰せられています（婦人章 4:58）。

クライザ族の出来事において、この原則は最も緊迫した状況 — 裏切りと包囲の後 — で実行されました。アッラーの使徒 ﷺ は**近道を取られず**、かれら自身の同盟者が受け入れる裁定者に判断を委ねられました。教訓：争いにおいては**公正な第三者**を求め、その判断を受け入れなさい。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サアド・ブン・ムアーズの裁定

道中、アウス族はサアドを取り囲んで説得しました。スィーラ書は、かれらが「アブー・アムルよ、あなたの同盟者たちに善くしてやってください」と言ったと述べています。サアドは有名な言葉で答えました。**「サアドにとって、アッラーのことにおいて誰の非難にも左右されない時が来たのだ。」**

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、裁定の前後にサアドに起きたことを、非常に重要な一つの詳細と共に伝えています：

ハディース ― 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 1582 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ أَبِي الزُّبَيْرِ، عَنْ جَابِرٍ، أَنَّهُ قَالَ رُمِيَ يَوْمَ الأَحْزَابِ سَعْدُ بْنُ مُعَاذٍ فَقَطَعُوا أَكْحَلَهُ أَوْ أَبْجَلَهُ فَحَسَمَهُ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بِالنَّارِ فَانْتَفَخَتْ يَدُهُ فَتَرَكَهُ فَنَزَفَهُ الدَّمُ فَحَسَمَهُ أُخْرَى فَانْتَفَخَتْ يَدُهُ فَلَمَّا رَأَى ذَلِكَ قَالَ اللَّهُمَّ لاَ تُخْرِجْ نَفْسِي حَتَّى تُقِرَّ عَيْنِي مِنْ بَنِي قُرَيْظَةَ. فَاسْتَمْسَكَ عِرْقُهُ فَمَا قَطَرَ قَطْرَةً حَتَّى نَزَلُوا عَلَى حُكْمِ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ فَأَرْسَلَ إِلَيْهِ فَحَكَمَ أَنْ يُقْتَلَ رِجَالُهُمْ وَيُسْتَحْيَى نِسَاؤُهُمْ يَسْتَعِينُ بِهِنَّ الْمُسْلِمُونَ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَصَبْتَ حُكْمَ اللَّهِ فِيهِمْ. وَكَانُوا أَرْبَعَمِائَةٍ فَلَمَّا فَرَغَ مِنْ قَتْلِهِمُ انْفَتَقَ عِرْقُهُ فَمَاتَ. قَالَ أَبُو عِيسَى هَذَا حَدِيثٌ حَسَنٌ صَحِيحٌ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った：**サアド・ブン・ムアーズは部族連合の日に矢を受け、腕の静脈を断たれた。アッラーの使徒 ﷺ は火で焼いて（血を止め）られたが、手が腫れた。使徒がそのままにされると、また血が流れた。使徒はもう一度焼かれたが、手が腫れた。サアドはその様子を見て祈った。「アッラーよ、クライザ族のことで私の目を喜ばせてくださるまで、私の魂を取らないでください。」すると静脈は止まり、一滴も垂れなくなった。** やがてかれらはサアド・ブン・ムアーズの裁定に従って降伏した。使徒はかれのもとへ人を遣わし、かれは、かれらの男たちは殺され、女たちはムスリムに助けられるよう生かされると裁定した。アッラーの使徒 ﷺ は仰せられた。**「あなたはかれらについて、アッラーの裁きに適った。」** かれらは**四百人**であった。それが終わる

と、かれの静脈は再び開き、かれは亡くなった。アブー・イーサーは言った：このハディースはハサン・サヒーフである。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← アブー・アッ＝ズバイル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』遠征の書、裁定に従って降伏することについての章、ハディース第 1582 番。

等級： サヒーフ（真正）― イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフとし、ダールッサラームとシャイフ・アル＝アルバーニーはサヒーフとしている。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:1582

なぜその裁定なのか

サアドの裁定は、**戦時の裏切り**に対する罰でした。クライザ族は単に助けを拒んだのではありません。ムスリムの女性と子どもがかれらのすぐ隣にいるときに、マディーナを**滅ぼす**ために来た一万の軍勢と結託したのです。もし部族連合が成功していたら、マディーナの住民全体が滅ぼされた可能性が高いのです。

項目	説明
裁定者を選んだのは誰か	クライザ族自身がサアドの裁定に従って降伏した（4121）
サアドとは誰か	アウス族の長、かれら自身の同盟者
どんな罪に対してか	国が包囲されているときの盟約の裏切り
誰に対してか	戦った男たちのみ（1584）、女性と子どもではない
アッラーの使徒 ﷺ	「あなたはアッラーの裁きに適った」

アッラーの使徒 ﷺ は、その裁定が**アッラーの裁きに適っている**と述べられました。サアド自身がかれらの昔からの同盟者だったのですから、それは個人的な復讐から生まれた裁定ではありません。教訓：裁定者は、人間関係や部族の圧力ではなく、**真実**に基づいて裁かなければなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戦った者だけ

サアドの裁定は「**戦う者たち**」（アル＝ムカーティラ）と述べています。それはどのように実行されたのでしょうか。クライザ族出身で、後にイスラームに入った一人の証人がこう語っています：

ハディース ― 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 1584 番

حَدَّثَنَا هَنَّادٌ، حَدَّثَنَا وَكِيعٌ، عَنْ سُفْيَانَ، عَنْ عَبْدِ الْمَلِكِ بْنِ عُمَيْرٍ، عَنْ عَطِيَّةَ الْقُرَظِيِّ، قَالَ عُرِضْنَا عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ قُرَيْظَةَ فَكَانَ مَنْ أَنْبَتَ قُتِلَ وَمَنْ لَمْ يُنْبِتْ خُلِّيَ سَبِيلُهُ فَكُنْتُ مِمَّنْ لَمْ يُنْبِتْ فَخُلِّيَ سَبِيلِي. قَالَ أَبُو عِيسَى هَذَا حَدِيثٌ حَسَنٌ صَحِيحٌ.

訳：

アティーヤ・アル＝クラズィー رضى الله عنه は言った：「**私たちはクライザの日に預言者ﷺの前に連れて来られた。（成人のしるしの）毛が生えていた者は殺され、生えていなかった者は放された。私は生えていなかった者の一人で、放された。**」アブー・イーサー（ティルミズィー）は言った：このハディースはハサン・サヒーフである。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ハンナード・ブン・アッ＝サリー ← ワキーウ・ブン・アル＝ジャッラーフ ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← アブドゥルマリク・ブン・ウマイル ← アティーヤ・アル＝クラズィー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』遠征の書、裁定に従って降伏することについての章、ハディース第 1584 番；『スナン・アビー・ダーウード』第 4404 番、『スナン・アン＝ナサーイー』第 3430 番にも。

等級： サヒーフ（真正）― イマーム・ティルミズィーはハサン・サヒーフとし、ダールッサラームとシャイフ・アル＝アルバーニーはサヒーフとしている。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:1584

アティーヤ・アル＝クラズィーは当時まだ子どもでした。成人していなかったため**放され**、後にイスラームに入り、ハディースを伝える教友となりました。かれの証言は、罰が戦うことのできる**成人男性に限られていた**ことを示しています。

これは、アッラーの使徒 ﷺ の厳格な禁止と一致しています。ある戦いで一人の女性が殺されているのが見つかったとき、**使徒は女性と子どもを殺すことを禁じられました**（『サヒーフ・ブハーリー』3015）。またアーイシャ رضي الله عنها からは、クライザ族の女性で殺されたのは、自ら人を殺した一人だけであったと伝えられています（『スナン・アビー・ダーウード』2671、ハサンと評価）。

集団	かれらの運命（典拠）
戦った成人男性	死刑（ブハーリー 4121、4122；ティルミズィー 1582）
男の子ども	放された（ティルミズィー 1584）
女性	殺されなかった。ただし、人を殺した一人を除く（アブー・ダーウード 2671）
イスラームに入った者	家族と財産と共に安全を与えられた（ブハーリー 4028）

教訓：重い罰の中にあっても、イスラームは戦闘員と非戦闘員を**区別します**。これがシャリーアにおける戦争法の基礎です — 現代の国際条約よりはるか以前のことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

軍の指揮官へのアッラーの使徒ﷺの訓示

戦闘員と非戦闘員を区別する原則は、孤立した出来事ではありません。ブライダ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ が部隊の長を任命されるとき、アッラーを畏れるよう諭してから、こう仰せられたと伝えています。「**アッラーの御名において、アッラーの道のために戦いなさい……戦利品を盗んではならない。約束を裏切ってはならない。遺体を損なってはならない。子どもを殺してはならない。**」（『サヒーフ・ムスリム』1731）。

この訓示の中の「**約束を裏切ってはならない**」という禁止に注目してください。ムスリム自身が、クライザ族が行ったことを固く禁じられているのです。裏切りを罰するのと同じシャリーアが、**ムスリムの手を縛り**、不正を行わないようにしています。

かれらの人数はどれほどか

罰せられたクライザ族の男たちは何人だったのでしょうか。この質問はしばしば提起されますが、その答えには**典拠を区別する**ことが必要です。

典拠	挙げられている人数
『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1582（ハサン・サヒーフ、ジャービルより）	四百人
イブン・イスハーク（イブン・ヒシャームの『預言者伝』）	六百人から七百人
他のスィーラの伝承の一部	最大で八百人または九百人
『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』	人数を述べていない

サヒーフと評価される伝承の中で唯一の人数は、ティルミズィーが伝えるジャービルのハディースにある**四百人**です。より大きな数はスィーラ書から来ており、その伝承経路は真正なハディースと同等ではありません。ムスリムと非ムスリムの一部の研究者も、それらの大きな数の正確さを論じています。

スィーラの注：研究者の議論

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニーは『ファトフ・アル＝バーリー』で、この人数についての異なる伝承を集めましたが、一つの数に確定していません。現代では、**W・N・アラファト**（1976 年）のような一部の著者がイブン・イスハークの伝承に疑問を呈し、他の人々はそれを擁護しています。

本書は、最も強い伝承が述べるもの以外、いずれの数にも肩入れしません。**確かな**ことは、罰が、戦時の裏切りのために、かれらが受け入れた裁定者によって、戦った男たちに下されたということです。

参照：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』；W・N・アラファト「New Light on the Story of Banu Qurayza and the Jews of Medina」JRAS（1976 年）。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Qurayza

教訓：ムスリムは**自らの歴史に誠実**です。人を怖がらせるために数を誇張する必要も、人を喜ばせるために出来事を否定する必要もありません。真正なものを伝え、その英知を説明するのです。

アッラーはかれらを砦から降ろされた

クルアーンは、アッラーが敵の軍勢をどのように追い払われたかを述べた後、部族連合の物語の終わりに、二つの短い節でこの出来事を記録しています：

「**……あなたがたは或る者を殺し、また或る者を捕虜とした。**」部族連合章 33:26（イブン・カスィール注釈）。

「**またかれは、かれら（啓典の民）の土地、住宅、財産またあなたがたの未踏の地を、あなたがたに継がせられた。アッラーは凡てのことに全能であられる。**」部族連合章 33:27（イブン・カスィール注釈）。

クルアーンの表現	解説（イブン・カスィール注釈）
「かれらを助けた者」	部族連合を支援したクライザ族
「かれらの砦から」	自分たちを守ってくれると思っていた石の要塞
「かれらの心に恐怖を投げ込まれた」	アッラーが投げ込まれた恐れ
「まだ足を踏み入れていない土地」	ハイバル、そして後に開かれた国々

この節が行為を**アッラー**に帰していることに注目してください。「かれは降ろされた……かれは投げ込まれた……かれは継がせられた。」ムスリムはアッラーの定めの道具にすぎません。そしてこの節は主な理由を名指ししています。かれらは攻めて来た敵を「**助けた**」のです。

イブン・カスィールは、「**まだ足を踏み入れていない土地**」とはハイバルを指すと説明し、一部の学者は後に開かれたペルシアとローマの国々も含めています — ハンダクで大きな岩を砕かれたときのアッラーの使徒ﷺの吉報（第 12 巻）と一致しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓：クルアーンはこの出来事を誇張することなく、**簡潔に、落ち着いて**語っています。それは裏切りの結末についての教訓であり、忍耐する者へのアッラーの約束についての教訓なのです。

アンサールのナツメヤシの返還

ヒジュラ以来、ムハージルーンはアンサールの寛大さに頼っていました。アンサールは家や果樹園、ナツメヤシの収穫を分かち合ったのです（第 8 巻）。ナディール族とクライザ族の出来事の後、この状況は変わりました。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه はこう語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4120 番

حَدَّثَنَا ابْنُ أَبِي الأَسْوَدِ، حَدَّثَنَا مُعْتَمِرٌ، وَحَدَّثَنِي خَلِيفَةُ، حَدَّثَنَا مُعْتَمِرٌ، قَالَ سَمِعْتُ أَبِي، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ كَانَ الرَّجُلُ يَجْعَلُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم النَّخَلاَتِ حَتَّى افْتَتَحَ قُرَيْظَةَ وَالنَّضِيرَ، وَإِنَّ أَهْلِي أَمَرُونِي أَنْ آتِيَ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَأَسْأَلَهُ الَّذِينَ كَانُوا أَعْطَوْهُ أَوْ بَعْضَهُ. وَكَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَدْ أَعْطَاهُ أُمَّ أَيْمَنَ، فَجَاءَتْ أُمُّ أَيْمَنَ فَجَعَلَتِ الثَّوْبَ فِي عُنُقِي تَقُولُ كَلاَّ وَالَّذِي لاَ إِلَهَ إِلاَّ هُوَ لاَ يُعْطِيكَهُمْ وَقَدْ أَعْطَانِيهَا، أَوْ كَمَا قَالَتْ، وَالنَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ لَكِ كَذَا. وَتَقُولُ كَلاَّ وَاللَّهِ. حَتَّى أَعْطَاهَا، حَسِبْتُ أَنَّهُ قَالَ عَشَرَةَ أَمْثَالِهِ. أَوْ كَمَا قَالَ.

訳：

アナス رضى الله عنه は言った：**かつて（アンサールの）人は、預言者 ﷺ に何本かのナツメヤシの木を差し上げていた。使徒がクライザとナディールを開かれる（そしてそれを返される）までは。** 私の家族は、自分たちが差し上げたもの、またはその一部を（返してもらうよう）頼みに、私を預言者 ﷺ のもとへ行かせた。預言者 ﷺ はそれをウンム・アイマンに与えておられた。するとウンム・アイマンが来て、私の首に布をかけて言った。「いいえ！ かれのほかに神のないアッラーにかけて、使徒はそれをあなたに与えたりなさいません。私に与えてくださったのですから。」 預言者 ﷺ は仰せられた。「あなたにはこれこれを与えよう。」 彼女はなお「いいえ、アッラーにかけて」と言った。**ついに使徒は彼女に ― 確か使徒はこう仰せられたと思うが ― 十倍を与えられた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イブン・アビー・アル＝アスワド ← ムウタミル；またハリーファ・ブン・ハイヤート ← ムウタミル ← 父スライマーン・アッ＝タイミー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ が部族連合から戻りクライザ族へ出発された章、ハディース第 4120 番；第 2630 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1771 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4120

このハディースには二つの話が含まれています。第一に、ナディール族とクライザ族の財産が分配されると、ムハージルーンはもはやアンサールに頼らなくなったので、アッラーの使徒 ﷺ はアンサールが差し出していた**ナツメヤシの木を持ち主に返されました。**第二に、**ウンム・アイマン** رضي الله عنها が受け取った贈り物を返すのを拒んだ話です。

スィーラの注：ウンム・アイマンとは？

ウンム・アイマン（バラカ） رضي الله عنها は、使徒の母アーミナが亡くなった後、幼い頃からアッラーの使徒 ﷺ を育てた人です。使徒は彼女を敬い、「**わが母の後のわが母**」と呼ばれたこともあります（スィーラ書）。彼女はウサーマ・ブン・ザイド رضي الله عنهما の母です。

使徒が彼女の拒否にどれほど**やさしく**接されたかを見てください。使徒は彼女を叱らず、彼女が満足するまで — およそ**十倍**になるまで — 埋め合わせを増やされました。アンサールの権利は返され、ウンム・アイマンの心は守られたのです。

参照：

Wikipedia「Umm Ayman (Baraka)」；『サヒーフ・ムスリム』1771。
https://en.wikipedia.org/wiki/Umm_Ayman_(Baraka)

教訓：**苦しいときに貸された贈り物は、豊かなときに返されるべきです。**そして人の権利を返すときにも、英知と寛大さをもって、すべての人の気持ちを大切にするのです。

「ジブリールがあなたと共にいる」

戦いは剣と矢だけで行われるのではありません。当時、**詩**は非常に影響力のあるメディアでした。中傷の詩はアラビア半島全体に広まり、ある部族の名誉を崩すことができました。多神教徒たちは自分たちの詩人を使ってアッラーの使徒 ﷺ をののしりました。

アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضي الله عنه は、預言者 ﷺ がハッサーン・ブン・サービト رضي الله عنه にこう仰せられたと伝えています。**「かれらの中傷に応えなさい。ジブリールがあなたと共にいる。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4123）。続く伝承では、この言葉が**クライザの日に**語られたと述べられています（『サヒーフ・ブハーリー』4124）。

イマーム・ムスリムの伝承では、アッラーの使徒 ﷺ はイスラームを守る詩について仰せられました。**「それはかれらにとって、矢の雨よりも痛い」**（『サヒーフ・ムスリム』2490）。

項目	教訓
ハッサーン・ブン・サービト	芸術と言葉の才能が真理を守るために用いられた
「ジブリールがあなたと共にいる」	アッラーは、言葉でかれの宗教を守る者を助けられる
クライザの日に	情報の戦いは戦場の出来事と並行して進んだ
今日のメディア	文章、動画、SNS は私たちの時代の「詩」である

教訓：**真実で美しい言葉**で真理を守ることは、ジハードの一部です。しかしそれは真実に基づかなければなりません — 中傷でも、嘘でも、限度を超えたののしりでもなく。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

サアドの祈りと逝去

第 5 章で示したアーイシャ رضى الله عنها のハディースに戻りましょう。裁定が実行された後、サアドは驚くべき祈りをささげました。クライシュ族との戦いがまだ残っているなら**自分を生かしてください**、戦いが終わったのなら**その傷によって自分を死なせてください**、と。

アッラーはかれの祈りに応えられました。血が止まっていた腕の静脈の傷が突然**再び噴き出し**、血は近くのギファール族の天幕にまで流れました。サアドはハンダクで受けた傷によって殉教者として亡くなりました。そしてかれの思ったとおり、ハンダクの後、**クライシュ族が再びマディーナを攻めることはありませんでした**。

スィーラの注：ルファイダと治療の天幕

イブン・イスハークは、サアドが預言者モスクの中にある**ルファイダ・アル＝アスラミーヤ**の天幕で手当てを受けたと伝えています。ルファイダは、負傷者や病人を誠実に看護した女性でした。多くの著者は彼女を**イスラーム史上最初の看護師の一人**と呼び、今日いくつかのイスラーム諸国では、彼女の名が看護の賞に冠されています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Rufaida Al-Aslamia」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Rufaida_Al-Aslamia

医学の注：アクハルの静脈と焼灼

ハディースは、サアドが**アル＝アクハル**、すなわち腕の中ほどの静脈を射られたと述べています。アラビア語の言語学者と医学者は、これを肘の内側の静脈 — 今日採血に使われる**肘正中皮静脈**（median cubital vein）とほぼ同じもの — と特定しています（Wikipedia「Median cubital vein」）。このような静脈の傷は、大量の、繰り返す出血を起こすことがあります。

アッラーの使徒 ﷺ はその傷を熱した鉄で**焼灼**されました（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1582；『サヒーフ・ムスリム』2208）。焼灼は熱によって出血を止め

る方法で、その原理は今も**電気メス（電気焼灼）**として現代の外科で使われています（Wikipedia「Cauterization」）。それでも使徒は、**「私は焼灼による治療を好まない」**（『サヒーフ・ブハーリー』5683）と仰せられました — つまり、必要なときにだけ用いられたのです。

教訓：サアドは自分のために長寿を求めたのではなく、**アッラーの道のために戦うために**それを求めました。かれの人生は、果たした信託によって測られたのです。

慈悲深き御方の玉座が揺れた

サアド・ブン・ムアーズの死は、普通の出来事ではありませんでした。アッラーの使徒 ﷺ は、他のどの教友についても述べられなかったことを告げられました：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3803 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا فَضْلُ بْنُ مُسَاوِرٍ، خَتَنُ أَبِي عَوَانَةَ حَدَّثَنَا أَبُو عَوَانَةَ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ أَبِي سُفْيَانَ، عَنْ جَابِرٍ ـ رضى الله عنه ـ سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ اهْتَزَّ الْعَرْشُ لِمَوْتِ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ. وَعَنِ الأَعْمَشِ حَدَّثَنَا أَبُو صَالِحٍ عَنْ جَابِرٍ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مِثْلَهُ. فَقَالَ رَجُلٌ لِجَابِرٍ فَإِنَّ الْبَرَاءَ يَقُولُ اهْتَزَّ السَّرِيرُ. فَقَالَ إِنَّهُ كَانَ بَيْنَ هَذَيْنِ الْحَيَّيْنِ ضَغَائِنُ، سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ اهْتَزَّ عَرْشُ الرَّحْمَنِ لِمَوْتِ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った：私は預言者 ﷺ がこう仰せられるのを聞いた。「**サアド・ブン・ムアーズの死によって玉座が揺れた。**」ある男がジャービルに言った。「アル＝バラーウは『揺れたのは棺台（アッ＝サリール）だ』と言っている。」ジャービルは答えた。「かつてこの二つの部族（アウス族とハズラジュ族）の間には確執があった。私は預言者 ﷺ がこう仰せられるのを聞いたのだ。**『サアド・ブン・ムアーズの死によって、慈悲深き御方の玉座が揺れた。』**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝ムサンナー ← ファドル・ブン・ムサーウィル ← アブー・アワーナ ← アル＝アアマシュ ← アブー・スフヤーン（タルハ・ブン・ナーフィウ） ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما；また、アル＝アアマシュ ← アブー・サーリフ ← ジャービル。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アンサールの美徳の書、サアド・ブン・ムアーズの美徳の章、ハディース第 3803 番；『サヒーフ・ムスリム』第 2466 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3803

ジャービルの毅然とした態度に注目してください。アル＝バラーウ（アウス族）が、揺れたのは**棺台**だと言ったと聞かされたとき、ジャービル（サアドとは別のハズラジュ族）はその解釈を退け、使徒の言葉をはっきりと述べました。**慈悲深き御方の玉座**です。かれは部族意識が伝承に影響することを許しませんでした。これが、ハディースを伝える教友たちの誠実さです。

イマーム・アン＝ナワウィーは、多くの学者が選んだ見解を挙げています。玉座は、サアドの魂の到来を**喜んで**本当に揺れたのです。これは目に見えない世界のことであるため、私たちは「どのように」と問うことなくそれを信じます。

スィーラの注：天使たちが担った遺体

アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه は言いました。サアドの遺体が担がれたとき、偽信者たちは「なんと軽い遺体だろう！」と言った―クライザ族に対するかれの裁定を当てこすったのである。それが預言者 ﷺ に伝わると、使徒は仰せられた。「**まことに、それを担っていたのは天使たちである。**」（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3849、ハサン・サヒーフ）。

アン＝ナサーイーの伝承では、使徒はこう仰せられました。「これは、玉座がかれのために動き、天の門がかれのために開かれ、**七万の天使**が立ち会った者である。かれは（墓に）一度締めつけられ、それから広げられた。」（『スナン・アン＝ナサーイー』2055、アルバーニーはサヒーフとする）。サアドでさえ墓の締めつけを経験したのなら、私たちはなおさら備えなければなりません。

参照：

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3849；『スナン・アン＝ナサーイー』2055。
https://sunnah.com/nasai:2055

教訓：アッラーのもとでの地位は、**寿命の長さ**や**財産の多さ**で測られるのではありません。サアドは若くして亡くなりましたが、天と玉座がかれを迎えました。そして偽信者たちの非難は、かれの栄誉を少しも損なわなかったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

天国のサアドのハンカチ

アッラーの使徒 ﷺ はまた、美しく分かりやすいたとえで、天国におけるサアドの地位を描かれました：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3802 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ سَمِعْتُ الْبَرَاءَ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ أُهْدِيَتْ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم حُلَّةُ حَرِيرٍ، فَجَعَلَ أَصْحَابُهُ يَمَسُّونَهَا وَيَعْجَبُونَ مِنْ لِينِهَا فَقَالَ أَتَعْجَبُونَ مِنْ لِينِ هَذِهِ لَمَنَادِيلُ سَعْدِ بْنِ مُعَاذٍ خَيْرٌ مِنْهَا. أَوْ أَلْيَنُ. رَوَاهُ قَتَادَةُ وَالزُّهْرِيُّ سَمِعَا أَنَسًا عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم.

訳：

アル＝バラーウ رضى الله عنه は言った：**絹の衣が預言者 ﷺ に贈られた。教友たちはそれに触れ、その柔らかさに驚いた。使徒は仰せられた。「あなた方はこの柔らかさに驚いているのか。まことに、（天国での）サアド・ブン・ムアーズのハンカチは、これよりも優れている」** ― または「より柔らかい」。カターダとアッ＝ズフリーはこれを伝え、二人ともアナスから、アナスは預言者 ﷺ から聞いた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル ← シュウバ ← アブー・イスハーク ← アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه；また カターダ と アッ＝ズフリー ← アナス。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』アンサールの美徳の書、サアド・ブン・ムアーズの美徳の章、ハディース第 3802 番；『サヒーフ・ムスリム』第 2468 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3802

教友たちは、当時最も高価な衣であった絹の柔らかさに驚きました。使徒はかれらの目を別のところへ向けられました。天国のサアドの**ハンカチ** ― 手をふくための、最もつまらない品 ― でさえ、この世の最上の絹より優れているのです。ましてや、かれの衣や宮殿はどれほどでしょうか！

出来事	サアド・ブン・ムアーズの生涯（要約）
イスラームに入る	ヒジュラの前、マディーナでのムスアブ・ブン・ウマイルの呼びかけによって（スィーラ書）
かれの部族	アブドゥル・アシュハル族全体が同じ日にイスラームに入った（スィーラ書）
バドルとウフド	戦場でアッラーの使徒 ﷺ と共に（第 9 巻・第 10 巻）
	腕の静脈に矢を受ける（ブハーリー 4122）
クライザ族	アッラーの裁きによって裁定する（ブハーリー 4121）
逝去	ヒジュラ暦 5 年ズル・カアダ月、約 37 歳で（スィーラ書）

サアドがイスラームに入ってから亡くなるまで、わずか約**六年**でした。しかしその短い間に、かれは部族全体をイスラームに導き、すべての戦場で戦い、公正な裁定者となりました。教訓：寿命の長さよりも**人生の祝福**が大切なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

敵に対しても公正に

クライザ族の物語は、時に誤用されます — イスラームを暴力の宗教だと非難するために、あるいは無知な者がある民族への憎しみを正当化するために。どちらも**誤り**です。クルアーンは明確な原則を定めています：

「ある民への憎しみによって、あなたがたが公正を欠くようなことがあってはならない。公正であれ。それは最も篤信に近い。」食卓章 5:8（イブン・カスィール注釈）。

イスラームはまた、裏切りが恐れられる相手に対してさえ、不意打ちの裏切りを禁じています。**「同じように（公然と）かれらとの盟約を投げ返しなさい。まことにアッラーは裏切る者を愛されない。」**戦利品章 8:58（イブン・カスィール注釈）。

原則	根拠
約束を守る	食卓章 5:1；夜の旅章 17:34
敵であっても裏切らない	戦利品章 8:58
嫌う相手にも公正である	食卓章 5:8
女性と子どもを殺さない	『サヒーフ・ブハーリー』3015
和平の約束を結んだ非ムスリムを守る	『サヒーフ・ブハーリー』3166
戦わない者に善を尽くす	試問される女章 60:8

アッラーの使徒 ﷺ は仰せられました。**「ムアーハド（和平の約束を結んだ非ムスリム）を殺す者は、天国の香りをかぐことがない」**（『サヒーフ・ブハーリー』3166）。これは、和平にある非ムスリムの命がシャリーアによって**守られている**ことを示しています。

クライザ族の出来事は、正当な統治者が、双方が受け入れた裁定者を通じて、戦時に戦い盟約を裏切った集団に下した**特定の裁定**です。それを今日、いかなる個人や民族を傷つける**口実にしてはなりません。**

スィーラの中で敬われたユダヤ教徒

預言者伝はまた、**敬われた**ユダヤ教徒たち―アッラーの使徒ﷺに敬われた人々―も記録しています。その中には、使徒が到着されるとすぐにイスラームに入ったマディーナのユダヤ教の学者**アブドゥッラー・ブン・サラーム** رضي الله عنه がおり、使徒はかれが天国の民であると告げられました（『サヒーフ・ブハーリー』3812）。

イブン・イスハークはまた、裕福なユダヤ教の学者**ムハイリーク**についても述べています。かれはウフドの日に自分の部族に「ムハンマドを助けることがあなた方の義務であると、あなた方は知っている」と言いました。かれはムスリムと共に戦いに出て戦死し、自分の財産をアッラーの使徒ﷺに渡すよう遺言していました。使徒はかれについて「**ムハイリークは最良のユダヤ教徒である**」と仰せられました（スィーラの伝承）。教訓：イスラームは人を、その民族ではなく**行いによって評価します**。

クライザ族の物語の典拠

クライザ族の物語は、等級の異なる三種類の典拠を通じて私たちに伝わっています。本書は、読者が**何が確かか**と**何が有名か**を知ることができるよう、三つを区別しています：

クライザ族の物語の典拠

クルアーン（4）

- 砦から降ろされ、心に恐怖（33:26）
- 土地と財産を継がせた（33:27）
- 盟約を破る者（8:56–58）
- 敵に対しても公正であれ（5:8）

真正なハディース（9）

- ジブリール：「まだ武器を置いていない」
- ジブリールの行軍の砂ぼこり
- クライザ族の地でのアスル／ズフル
- 「あなた方の長のために立ちなさい」
- サアドの裁定：「アッラーの裁き」
- 成人のみ：アティーヤ・アル＝クラズィー
- イスラームに入った者は安全（4028）
- アンサールのナツメヤシの返還
- サアドの逝去；玉座が揺れる

スィーラ書（4）

- フヤイとカアブ・ブン・アサドの盟約破棄
- カアブ・ブン・アサドの三つの提案
- アブー・ルバーバとモスクの柱
- 600〜900人という数

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：本書におけるクライザ族の物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
砦から降ろされた；恐怖；殺害と捕虜；土地を継ぐ	クルアーン（部族連合章 33:26–27）— 確実

物語	典拠と等級
ジブリール；砂ぼこり；アスルの礼拝；「あなた方の長のために立ちなさい」；サアドの裁定	『サヒーフ・ブハーリー』4118–4122 — サヒーフ
ズフルの礼拝（別の伝承）	『サヒーフ・ムスリム』1770 — サヒーフ
アティーヤ・アル＝クラズィー；400 人という数；天使が担った遺体	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584、1582、3849 — ハサン・サヒーフ
玉座が揺れた；サアドのハンカチ	『サヒーフ・ブハーリー』3803、3802 — サヒーフ
殺された女性は一人だけ	『スナン・アビー・ダーウード』2671 — ハサン
フヤイとカアブ；三つの提案；アブー・ルバーバ；600〜900 人という数	スィーラ書（イブン・イスハーク）— 有名、伝承経路はさまざま

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

約束と裏切りについてのクルアーンの節

クライザ族の物語は、約束についての物語です。クルアーンは部族連合章 33:26–27（第 17 章）でかれらの結末を語る前に、盟約についての明確な原則をすでに定めていました。いつそれを守らなければならないか、そしてそれが破られたときに何が起こるか、です。

戦利品章 8:55–58

アッラーは仰せられます。「アッラーのみもとで最悪の生き物は、信じない不信心者である。あなたがかれらと盟約を結んでも、かれらはその度に盟約を破り、畏れることがない」（戦利品章 8:55–56）。

イブン・カスィールはこの節を一般的に、約束するたびにそれを破る者たちについてのものと説明しています。一部の注釈学者はこの節をクライザ族に関するものとしており、その中にはイブン・アッバースに帰せられる『タンウィール・アル＝ミクバース』があります（この書のイブン・アッバースへの帰属は、学者たちによって弱いとされています）。次の節は、このような者たちに対して戦いにおける断固たる態度を命じ（8:57）、第 58 節は重要な条件を定めています。裏切りが恐れられる場合は、不意に攻撃するのではなく、まず公然と盟約を破棄しなければならないのです（戦利品章 8:58）。

節	原則	この物語との関わり
食卓章 5:1	すべての盟約を果たしなさい	ムスリムはマディーナ憲章を守った（第 2 章）
夜の旅章 17:34	約束は問われる	各当事者は自らの約束に責任を負う
蜜蜂章 16:91–92	固めた誓いを破ってはならない	ハンダクのときに引き裂かれた盟約（第 3 章）
悔悟章 9:4	盟約を破らない者には約束を全うしなさい	忠実な部族は手出しされなかった

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

節	原則	この物語との関わり
戦利品章 8:72	和平の約束を結んだ民に対して誰かを助けてはならない	盟約は非ムスリムに対しても尊重される
戦利品章 8:58	盟約は公然と破棄し、裏切ってはならない	イスラームは盟約の相手への不意打ちを禁じる

ハディース：偽信者のしるし

アブドゥッラー・ブン・アムル رضى الله عنهما は、預言者 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。「四つのことがある。そのすべてを持つ者は純然たる偽信者である……信託されれば裏切り、話せば嘘をつき、約束すれば破り（ガダル）、争えば度を越す。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』34。

ハディース：すべての裏切り者に旗がある

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう仰せられたと伝えています。「すべての裏切り者には、審判の日に一本の旗があり、それによってかれは見分けられる。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3186；イブン・ウマルからも、『サヒーフ・ブハーリー』3187。

この二つのハディースは、ムスリム自身に向けられたものです。裏切りは他人にだけ当てはまる罪ではありません。それは最も嫌われる偽信者の性質であり、裏切り者は審判の日にすべての被造物の前でさらされるのです。

教訓

クルアーンは、ムスリムであれ非ムスリムであれ、誰との約束も守るよう求めています。相手が裏切っても、イスラームは裏切りで報いることを許しません。許されているのは、盟約を公然と公正に破棄することです。

三つの部族、三つの盟約、三つの結末

マディーナの三つの大きなユダヤ教徒の部族（第1章）は、マディーナ憲章に縛られていました。三つとも最終的にその盟約から離れましたが、状況は異なり、その結末も異なりました。この比較は、それぞれの判断が民族や宗教ではなく、行為に基づいて下されたことを理解する助けとなります。

項目	カイヌカー族	ナディール族	クライザ族
時期	バドルの後、ヒジュラ暦2年	ヒジュラ暦4年ラビーウ・アル＝アウワル月	ヒジュラ暦5年ズル・カアダ月
行為	敵意を表明し、市場でムスリム女性の尊厳を汚した（スィーラ書）	アッラーの使徒 ﷺ がかれらの壁の下に座っておられたとき、殺害を企てた（スィーラ書）	マディーナが包囲されているときに盟約を引き裂き、部族連合の側についた（第3章）
状況	平時	平時	戦時；マディーナが内側から脅かされた
その後	シャームへ追放、動産の持ち出しは許された（スィーラ書）	追放；一部はハイバルへ、一部はシャームへ；集合章が啓示された	サアド・ブン・ムアーズの裁定に従って降伏（第13〜14章）

ハディース：ナディール族とクライザ族の運命の違い

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った：ナディール族とクライザ族は（アッラーの使徒 ﷺ と）戦った。使徒はナディール族を追放し、クライザ族は（とどまらせて）善く遇された。やがてクライザ族のほうも使徒と戦うまでは。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』4028；『サヒーフ・ムスリム』1766。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このハディースは重要です。ナディール族が追放されたとき、クライザ族は手出しされず、それどころか善く遇されました。かれらは他の部族の行為のために罰せられませんでした。かれら自身が最も危機的な時にムスリムと戦ったときになって初めて、かれらに対する措置が取られたのです。

罰の違いは、状況の違いとも関係しています。カイヌカーウ族とナディール族は平時に盟約を破り、追放されました。クライザ族は、マディーナ全体が一万の軍勢に包囲されているときにそれを破り、かれらの裏切りは前線の背後にいるムスリムの女性や子どもの殺害につながりかねませんでした（第 1 章）。また、かれら自身がサアドの裁定に従って降伏することを選んだのです（第 13 章）。

教訓

公正とは、それぞれの当事者をその行為によって評価することです。イスラームは、ある民を他の民の過ちのために罰することはなく、平時の裏切りと戦時の裏切りを同列に扱うこともありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族の出来事の人物

下の表は、本書で述べた主な人物とその役割をまとめたものです。読者が真正な伝承とスィーラ書の伝承を区別できるよう、各情報の典拠を示しています。

ムスリム側

人物	役割	典拠
サアド・ブン・ムアーズ رضى الله عنه	アウス族の長；選ばれた裁定者；ハンダクの傷により逝去	『サヒーフ・ブハーリー』4121、3803
アブー・ルバーバ رضى الله عنه	クライザ族の昔からの同盟者；身ぶりを誤り、悔悟した	スィーラ書（第11章）
サアド・ブン・ウバーダ رضى الله عنه	ハズラジュ族の長；裏切りの知らせを確かめる使者	スィーラ書（第4章）
アブドゥッラー・ブン・ラワーハ رضى الله عنه	同じく使者となった	スィーラ書
アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه	クライザ族への旗手	スィーラ書
ハッラード・ブン・スワイド رضى الله عنه	砦の上から落とされた石臼に当たり殉教	スィーラ書
サービト・ブン・カイス・ブン・シャンマース رضى الله عنه	かつて自分に善くしてくれたアッ＝ザビール・ブン・バーターの命乞いをした	スィーラ書
サルマー・ビント・カイス（ウンム・アル＝ムンズィル）رضى الله عنها	リファーア・ブン・サマウアルの命乞いをした	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族とその同盟者の側

人物	役割	典拠
カアブ・ブン・アサド	クライザ族の長；盟約の担い手；三つの提案をした	スィーラ書（第 3 章、第 10 章）
フヤイ・ブン・アフタブ	ナディール族の指導者；カアブを説得して盟約を裏切らせた	スィーラ書（第 3 章）
アムル・ブン・スウダー	裏切りへの加担を拒み、砦を出た	スィーラ書（第 12 章）
サアラバとウサイド・ブン・サアヤ；アサド・ブン・ウバイド	降伏の前夜にイスラームに入った	スィーラ書（第 12 章）
アティーヤ・アル＝クラズィー رضى الله عنه	放された子ども、後に教友となった	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584
アッ＝ザビール・ブン・バーター	サービトの願いで命の保証を与えられたが、自分の部族と運命を共にすることを選んだ	スィーラ書
リファーア・ブン・サマウアル	ウンム・アル＝ムンズィルの願いで救われた；イスラームに入ったと言われる	スィーラ書
ライハーナ・ビント・ザイド	捕虜の一人；アッラーの使徒 ﷺ との結婚の位置づけについては見解が分かれる	スィーラ書（質問 9）

スィーラの注：サービト・ブン・カイスとアッ＝ザビール・ブン・バーター

イブン・イスハークは、アッ＝ザビール・ブン・バーターがジャーヒリーヤ時代にサービト・ブン・カイスを解放したことがあると伝えています。サービトは恩返しをしたいと思い、アッ＝ザビールを赦してくださるようアッラーの使徒 ﷺ に願い出て、その願いは家族と財産を含めて受け入れられました。しかしアッ＝ザビールは、自分の部族の指導者たちの運命を知ると、かれらなしで生きることを望みませんでした。

位置づけ：スィーラ書の伝承（イブン・ヒシャーム『預言者伝』クライザ族の章）；『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはない。

これらの話はスィーラ書からのものですが、とりなしと赦しの門が開かれていたことを示しています。教友たちは、かつて自分に善くしてくれた人のために願い出ることを許され、アッラーの使徒 ﷺ はその願いを受け入れられたのです。

教訓

重い出来事の陰には、さまざまな顔があります。裏切った者、裏切りを拒んだ者、イスラームを選んだ者、そして昔の敵の恩を忘れなかった教友。歴史は単なる数字ではなく、人間の選択の積み重ねなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族の子孫から生まれた学者

クライザ族の出来事は、かれらの子孫の物語を終わらせはしませんでした。その日に放された子どもたち（第 15 章）はマディーナの社会で成長し、その一部とその子どもたちは、尊敬される学問の担い手となりました。

アティーヤ・アル＝クラズィー رضي الله عنه

アティーヤ自身が、クライザの日に自分はまだ成人していない子どもの一人で、放されたと伝えています（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584；第 15 章）。かれはその後イスラームに入り、アッラーの使徒 ﷺ の教友となりました。かれのハディースはスナン集に収録され、学者たちはそれを成人のしるしについての証拠としています。

ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィー

ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィーは、マディーナのタービウーン（教友の次の世代）の一人で、クルアーン注釈の学者として、また禁欲と敬虔さで知られていました。『ターリーフ・アル＝カビール』のブハーリーや『タフズィーブ・アッ＝タフズィーブ』のイブン・ハジャルのような伝承者の伝記の著者たちは、かれの父カアブが、その日に殺されなかったクライザ族の子どもの一人であったと述べています。かれの没年については、ヒジュラ暦 108 年頃から 120 年頃まで伝承が分かれています（sunnah.com、伝承者ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィー）。

ムハンマド・ブン・カアブの多くの解釈は、イマーム・アッ＝タバリーとイブン・カスィールの注釈書に引用されています。かつて盟約を裏切った部族の孫が、アッラーの書の意味をウンマに教える師となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

注：情報の位置づけ

アティーヤ・アル＝クラズィーの話は、ティルミズィーがハサン・サヒーフとしたハディースにあります。ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィーとその父についての情報は、『サヒーフ・ブハーリー』や『サヒーフ・ムスリム』ではなく、伝承者の伝記の書（リジャール）から取られています。

教訓

アッラーは死んだものから生きたものを出される。前の世代の過ちは、次の世代の導きの門を閉ざしません。イスラームは一人ひとりを自らの行いによって評価します。「重荷を負う者は、他人の重荷を負わない」（家畜章 6:164）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族の出来事の年表

下の表は、本書の出来事を順に並べたものです。日付はスィーラ書から取られており、いくつかの出来事の期間については伝承が分かれています。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦 1 年	マディーナ憲章がムスリムとユダヤ教徒の部族を結ぶ	スィーラ書（第 2 章）
ヒジュラ暦 4 年	ナディール族が追放される；クライザ族はとどまり、善く遇される	『サヒーフ・ブハーリー』4028
ヒジュラ暦 5 年シャウワール月	部族連合がマディーナを包囲；ハンダクの戦い	第 12 巻
包囲中	フヤイがカアブを説得；盟約が引き裂かれる	スィーラ書（第 3 章）
包囲中	サアド・ブン・ムアーズ、サアド・ブン・ウバーダらが知らせを確かめに遣わされる	スィーラ書（第 4 章）
包囲の終わり	アッラーの風と軍勢；部族連合が撤退	部族連合章 33:9、25
部族連合が撤退した日	ジブリールが来る：「あなたは武器を置かれたのか？」	『サヒーフ・ブハーリー』4122
同じ日	「誰も、クライザ族の地以外でアスルの礼拝をしてはならない」	『サヒーフ・ブハーリー』4119
ヒジュラ暦 5 年ズル・カアダ月	砦の包囲；イブン・イスハークによれば約 25 夜	スィーラ書（第 9 章）
包囲中	カアブの三つの提案；アブー・ルバーバの身ぶりと悔悟	スィーラ書（第 10〜11 章）
降伏の前夜	数人がイスラームに入る	スィーラ書（第 12 章）
降伏の日	サアドが裁定者として呼ばれる；「あなた方の長のために立ちなさい」	『サヒーフ・ブハーリー』4121

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
その後	裁定の執行；子どもと女性は殺されなかった	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584
まもなく	サアドの傷が開く；かれの逝去；玉座が揺れる	『サヒーフ・ブハーリー』4122、3803

教訓

この年表は、クライザ族の出来事が突然の行動ではなかったことを示しています。それに先立って何年もの盟約があり、ナディール族の追放後の善い待遇があり、知らせの確認があり、そして合意された仲裁で終わりました。出来事の順序を理解することは、公正に評価する助けとなります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライザ族についてのよくある質問

1. クライザ族は、ユダヤ教徒であったために罰せられたのですか？

いいえ。かれらはマディーナ憲章のもとで何年もマディーナで平和に暮らし、ナディール族が追放された後もとどまって善く遇されました（『サヒーフ・ブハーリー』4028；第 25 章）。措置が取られたのは、かれらが戦時に盟約を引き裂き、敵の側についたからです。生涯の終わりまで、アッラーの使徒 ﷺ はユダヤ教徒と取引を続けられました。使徒が亡くなられたとき、その鎧は大麦三十サーアと引き換えに一人のユダヤ教徒のもとに質入れされていました（『サヒーフ・ブハーリー』2916）。

2. 罰を下したのは誰ですか？

クライザ族自身が、かれらの昔からの同盟者であるアウス族の長サアド・ブン・ムアーズの裁定に従って砦から降りることに同意しました（『サヒーフ・ブハーリー』4121；第 13〜14 章）。その後、アッラーの使徒 ﷺ は、サアドがアッラーの裁きによって裁いたと仰せられました。

3. なぜナディール族のように単に追放されなかったのですか？

状況が異なっていたからです（第 25 章）。ナディール族は平時に盟約を破りましたが、クライザ族はマディーナが包囲され、ムスリムの女性と子どもの命が脅かされているときにそれを行いました。さらに、以前ナディール族と共に追放されたフヤイ・ブン・アフタブが戻って来て、マディーナを攻めるよう諸部族を扇動したことは、追放によって脅威が終わらなかったことを示しています。

4. 女性と子どもは殺されたのですか？

いいえ。成人していない子どもは放され（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1584）、女性は、ムスリムを殺した一人の女性を除いて殺されませんでした（『スナン・アビー・ダーウード』2671、ハサン；第 15 章）。これは、戦争において女性

と子どもを殺すことを禁じたアッラーの使徒 ﷺ の命令と一致しています（『サヒーフ・ブハーリー』3015）。

5. 罰せられたのは何人ですか？

サヒーフと評価される伝承の中で唯一の人数は四百人です（『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1582）。六百人から九百人という数はスィーラ書から来ており、一部の現代の研究者はそれに疑問を呈しています（第 16 章）。本書は最も強い伝承に従い、出来事を誇張することも否定することもしません。

6. 砦の包囲はどれくらい続きましたか？

イブン・イスハークは二十五夜としています。別の伝承では十五夜、または約一か月とされます（第 9 章）。クルアーンと真正なハディースはその期間を述べていません。

7. アブー・ルバーバがモスクの柱に自分を縛りつけたというのは本当ですか？

この話はスィーラ書とクルアーン注釈書で有名です（第 11 章）。イブン・イスハークがそれを伝えており、一部の注釈学者はそれを戦利品章 8:27 または悔悟章 9:102 と結びつけています。『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にはないため、スィーラの伝承として挙げています。預言者モスクでかれに帰せられる柱は、アブー・ルバーバの柱、または悔悟の柱として知られています。

8. クライザ族の地でのアスルの礼拝の出来事は、礼拝を遅らせることを許しているのですか？

いいえ。このハディースは、指示を理解する際のイジュティハードと意見の違いの作法について教えているのであって（第 7〜8 章）、理由なく礼拝を遅らせる許可ではありません。アッラーの使徒 ﷺ がどちらのグループも責められなかったのは、両者ともに使徒に従おうと努めていたからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

9. ライハーナ・ビント・ザイドはアッラーの使徒ﷺの妻だったのですか？

スィーラの学者たちの意見は分かれています。イブン・イスハークによれば、ライハーナはアッラーの使徒 ﷺ が亡くなられるまで使徒に属する女奴隷のままでした。イブン・サアドや他の伝承によれば、使徒は彼女を解放して結婚されました。この問題を決定する真正なハディースはないため、見解の分かれる問題として残されています（Wikipedia「Rayhana bint Zayd」）。

10. この出来事は「宗教に強制はない」に反するのではありませんか？

いいえ。「宗教に強制はない」（雌牛章 2:256）という節は、宗教を受け入れることについてのものです。クライザ族はイスラームを拒んだために罰せられたのではありません。かれらは何年も自分たちの宗教のままで暮らしていました。罰は戦時の裏切りに関するものです。それどころか、イスラームに入った者や、アムル・ブン・スウダーのように裏切りへの加担を拒んだ者は救われました（第 12 章）。

11. この出来事を、今日非ムスリムに敵対する口実にしてよいのですか？

いいえ。この出来事は、正当な統治者が、合意された裁定者を通じて、戦時にムスリムと戦った集団に下した特定の裁定です（第 22 章）。戦わない非ムスリムに対するイスラームの一般原則は、善を尽くし公正であることです（試問される女章 60:8）。そして、和平の約束を結んだ非ムスリムを殺す者は天国の香りをかぐことがありません（『サヒーフ・ブハーリー』3166）。

12. この物語の最大の教訓は何ですか？

約束を守り、公正であることです。ムスリムは相手が破るまで盟約を守りました。行動する前に知らせを確かめました。仲裁を受け入れました。そして戦闘員と女性・子どもを区別しました。同時にイスラームは、私たちに歴史に誠実であること — 確かなことと見解の分かれることを区別すること — を教えています。

教訓

クライザ族についての質問は、時には善意から、時には非難のために、しばしば尋ねられます。最良の答えは、クルアーン、真正なハディース、そして等級を区別したスィーラの伝承に立ち返り、落ち着いて、公正に、誠実に説明することです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

クライザ族の出来事は、ハンダクの戦いの章を閉じるものです。それは**約束と裏切り**の物語であり、**公正と仲裁**の物語であり、そして生涯は短くとも、その死が玉座を揺るがせた一人の教友の物語です。

教訓	クライザ族の出来事から
約束を守る	ムスリムは相手が破るまで盟約に忠実であった
知らせを確かめる	知らせを確かめるために使者が遣わされた
分裂せずに意見を異にする	クライザ族の地でのアスルの礼拝
すぐさまの悔悟	アブー・ルバーバと悔悟の柱
イスラームの門は開かれている	イスラームに入った者は安全を与えられた
公正な裁定者	サアドは部族の圧力に屈しなかった
戦闘員を区別する	子どもと女性は殺されなかった
歴史に誠実である	真正な伝承とスィーラの伝承を区別する
人生の祝福	サアドのために玉座が揺れた

私たちの生活の中のクライザ族の物語

私たちは砦の包囲に直面することはないかもしれませんが、いつも**約束**によって試されています。アッラーへの約束、家族への約束、雇い主への約束、隣人への約束、そして社会への約束です。この物語は、**苦しいときにも約束を守り**、嫌いな人にさえ公正であり、アブー・ルバーバのように、過ちを犯したらすぐに悔悟することを教えています。

インシャーアッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**第 14 巻** — クライザ族の後の出来事 — へと続きます。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:146；食卓章 5:1、8；戦利品章 8:27、56–58；部族連合章 33:26–27）。https://tafsir.app/ibn-katheer/33/26

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』2846、3015、3166、3802、3803、4028、4118、4119、4120、4121、4122、4123、4124、5683。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1766、1768、1769、1770、1771、2208、2466、2468、2490。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1582、1584、3743、3849；『スナン・アビー・ダーウード』2671；『スナン・アン＝ナサーイー』2055。https://sunnah.com

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— クライザ族の章。

イブン・サアド『タバカート』；アブー・ウバイド『アル＝アムワール』。

サフィーウッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された美酒（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— クライザ族の戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー』（サヒーフ・ブハーリー注釈）— マガーズィーの書；アン＝ナワウィー『サヒーフ・ムスリム注釈』。

W・N・アラファト「New Light on the Story of Banu Qurayza and the Jews of Medina」Journal of the Royal Asiatic Society（1976 年）。

Wikipedia「Banu Qurayza」。https://en.wikipedia.org/wiki/Banu_Qurayza

Wikipedia「Invasion of Banu Qurayza」。https://en.wikipedia.org/wiki/Invasion_of_Banu_Qurayza

ウィキペディア「Constitution of Medina」。https://en.wikipedia.org/wiki/Constitution_of_Medina

Wikipedia「Sa’d ibn Mu’adh」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sa%27d_ibn_Mu%27adh

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

Wikipedia「Rufaida Al-Aslamia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Rufaida_Al-Aslamia

Wikipedia「Cauterization」。https://en.wikipedia.org/wiki/Cauterization

Wikipedia「Median cubital vein」。https://en.wikipedia.org/wiki/Median_cubital_vein

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』34（偽信者の四つのしるし）。https://sunnah.com/bukhari:34

『サヒーフ・ブハーリー』3186、3187（すべての裏切り者の旗）。https://sunnah.com/bukhari:3186

『サヒーフ・ブハーリー』4028；『サヒーフ・ムスリム』1766（ナディール族とクライザ族）。https://sunnah.com/bukhari:4028

『サヒーフ・ブハーリー』2916（ユダヤ教徒のもとに質入れされた鎧）。https://sunnah.com/bukhari:2916

『サヒーフ・ブハーリー』3015（女性と子どもを殺すことの禁止）。https://sunnah.com/bukhari:3015

『サヒーフ・ブハーリー』3166（ムアーハドを殺すこと）。https://sunnah.com/bukhari:3166

イブン・カスィール注釈と『タンウィール・アル＝ミクバース』、戦利品章 8:56。https://surahquran.com/tafsir-english-aya-56-sora-8.html

sunnah.com、伝承者ムハンマド・ブン・カアブ・アル＝クラズィーの略歴。https://sunnah.com/narrator/7252

Wikipedia「Rayhana bint Zayd」。https://en.wikipedia.org/wiki/Rayhana_bint_Zayd

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

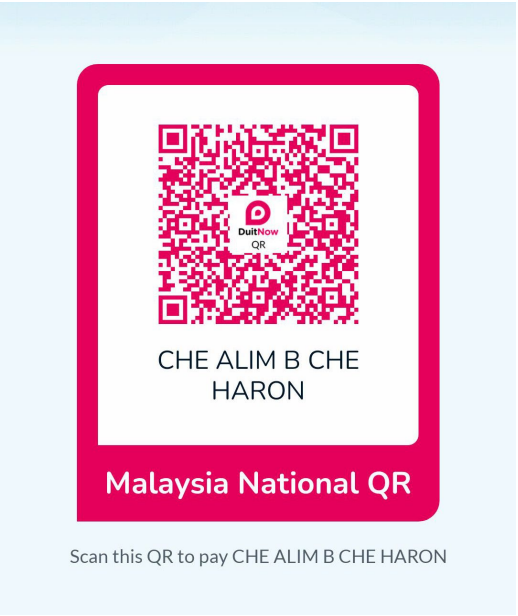
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience